

清楚系双子アイドルのHな秘密 ♪

	トラック01
ニュースキ ヤスター	「続いては芸能ニュースになります」
ニュースキ ヤスター	「先日、日本中を沸かせている大人気双子アイドルユニット『ジェミニ』がドームライブを行い、観客動員数が3万人を突破しました」
ニュースキ ヤスター	「姉である神雛美月さんと妹である神雛美星さんの2人姉妹で活動している『ジェミニ』」
ニュースキ ヤスター	「最近ではバラエティでもよく見かける人気絶好調のお二人ですが、遂に待望のドームライブを実施し見事成功」
ニュースキ ヤスター	「ドームでは今回のライブの為に用意された完全オリジナル曲も披露されたようで、近日新曲を含めたアルバムの発売も予定されているようです」
ニュースキ ヤスター	「ファンからも、デビューして間もないのにもうドームライブと驚く声や、新曲含めドームで2人の歌を聴けて幸せといった喜びの声が多く上がっています」

ニユースキ
ヤスター

「古くからのファンの話では、どうやらジェミニのマネージャーが変わってから人気に拍車がかかったらしく、ジェミニの飛躍はこの新人マネージャーの手腕による要素も大きいようです」

ニユースキ
ヤスター

「今回のドームでの成功を見て海外レベルからもジェミニに声がかかっており、今後の2人の動向には目が離せません」

ニユースキ
ヤスター

「芸能関係者のお話ですと、近々海外の大規模音楽フェスにも出演するかもといった声も上がっているらしく、2人の人気は国内のみならず海外にも広まっていくのではないかとまことしやかに囁かれ始めています」

ニユースキ
ヤスター

「本日はそういった今後の『ジェミニ』の展開を詳しくご説明していただく為にアイドルを専門に長年取材してきた専門家の方にスタジオにお越しいただきました」

美月

「えへへ♪ お兄さ〜ん♪ だ〜れだ〜?」

美星

「って、お姉? お兄さんなんて言ったらバレバレじゃん」

美月

「んもう、美星ったら……これはお兄さんにくつつく為の口実みたいな物なんだから、野暮な事は言わなくていいんだよ?」

美月

「何ならこうやって……ほらほらお兄さん？
どうですか？ アイドルのおっぱい♪ 早く答
えてくれないともっと押し付けちゃいますよ
〜？ えい♪ えいえい♪」

美星

「あ、ちょ！ お姉ズルイ！ あたしだってお兄
と久しぶりにくつつきたいのにい……！ つ
て、こらあ！ お兄もデレデレしない！ 顔な
んて見なくてももう分かってるんでしょ！ 早
くこっち向いて！ お姉も！ は〜な〜れ〜て
〜！」

美月

「きゃん♪ 美星ったらヤキモチ焼なんだから〜
……本当は美星もお兄さんに抱き着きたかった
クセに♪ いつまで経っても照れ屋なのは変わ
らないね〜♪」

美星

「ちょ、ちょっとお姉！ 変な事言わないで！
べ、別にそんな……お兄に抱き着きたいとかそ
ういう訳じゃ……」

美星

「ってかそもそも！ こんな街中であたしとお姉
が男の人に抱き着くとかヤバすぎでしょ！ お
姉は危機感なさ過ぎ！」

美月

「え〜？ う〜ん、いつも通りバレないように変
装してるし大丈夫じゃないかな〜？ ほら、周
りの人もそんな気にしてる様子はないし、美星
が神経質なだけだと思うよ？」

美星

「全くう……お姉？ あたし達、つい先日ドームライブしたばっかなんだよ？ 今もほら、あそこ。あんなおっきな街頭スクリーンで取り上げられてるし」

美月

「あ、本当だね。って、ふふ♪ お兄さん♪
『今をトキメク人気アイドル。敏腕マネージャーの活躍もあってかその人気は留まる事を知らない』ですって♪ 色々言われてますけど、当事者としてはどんな気分ですか？ マネージャーさん♪」

美星

「ん、まあ実際、お兄があたし達の専属マネージャーになってからほんっ……と評判良くなったしね。メイク担当の人に日に日に肌が綺麗になってますねって言われるし」

美月

「これも全部お兄さんといっぱいエッチしてきたおかげですね♪ 感謝してもしきれません。ありがとうございます♪」

美星

「ん……そうね。ほんと、ここまでジェミニが成長できたのはお兄のおかげ……お兄、ありがとう」

美月

「でもですね？ 最近ドームライブの告知イベントとか本番準備とかで忙しかったじゃないですか。お兄さんも毎日関係各所にご挨拶で大変でしたよね？」

美星

「泊まりで練習とか当たり前だったし、ほんと今までのアイドル活動で一番忙しかったかも……」

美月

「そのせいでお兄さんと一緒にいられる時間が少なくなっちゃって寂しかったですし……何より、やっぱりエッチ出来なかったのが本当に辛かったです」

美月

「練習してる時もライブで歌ってる時も、ずっとお兄さんの事が頭から離れなくて大変だったんですよ？　ね？　美星？」

美星

「まあこんなにお兄とエッチ出来なかったのって再開してから初めてだしね……そのせいか、最近は肌の調子も良くないし……」

美月

「ドームライブ成功をきっかけにまたお仕事が増えるからこそ、パフォーマンスは維持しないのですから、今の内にお兄さん成分を沢山補充しておきたいんです」

美星

「お兄とのエッチサボってたせいで人気低迷なんて絶対嫌だしね！　アイドルとして売れてる今のだからこそ、手を抜かずに自分磨きしないと！」

美月

「な〜んて美星は言ってますけど、本当はお兄さんと裸で抱きあって愛されたいだけですからね？ 昨日も部屋で『お兄♪ お兄い〜……♪』って可愛い声出しながらオナニーしてたの知ってますもん♪」

美星

「は！？ お、お姉覗いてたの！？ って、あ、あわわわ！ お兄！ ち、違うからね！？ いや、別に違くないけど……！ でも……うう……あわわわわわ……！」

美月

「ふふ♪ でも美星の気持ちも分かるよ？ だって、私も同じく、毎日お兄さんの事思って一人エッチ♪ してたんですからね？」

美月

「はい、そうなんです♪ ですから〜……お兄さん？ こんな可愛くて一途な恋人姉妹を放置して寂しがらせた責任、ちゃんと取ってくださいね？」

美星

「そ、そうよ！ あたしとお姉が、そ、そのう……オナニーして寝不足なのも全部お兄が悪いんだから！ 今日あたし達が満足するまでエッチしまくるからね！ いい？」

美月

「ふふ♪ では話もまとまりましたし、お兄さん？ このまま早速ラブホテルに行きましょうか♪」

美月

「今日は久しぶりのオフで一日中エッチできますし、お兄さんにいっぱい興奮して貰えるよう特別な衣装も用意しておきましたから楽しみにしてくださいね？」

美星

「ん、あと栄養ドリンクも買っておいだから飲んどいてね？ 一日中♡人でエッチするんだし、途中で倒れられても困るから」

美月

「えへへ♪ ではいい加減時間も迫ってきましたしラブホテルに行きましょうか」

美月

「さあお兄さん♪ 今日はいっぱいエッチな事しましょうね♪」

美星

「ほらお兄！ 今日はいっぱいエッチな事してよね！」

	トラック02
美月	「わあ〜♪ 一番高い部屋を選んだだけあって、 凄く綺麗で広いですね〜……♪」
美星	「3人で普通の部屋だと狭いと思ってたからこれ で大正解だったわね、って、お兄も。そんなと こに突っ立ってないで早く扉閉めてこっち来 て？」
美月	「えへへ、美星？ もういいかな？」
美星	「ん、お姉……あたしも我慢の限界だから」
美月	「ふふ♪ それじゃあお兄さん♪」
美星	「お兄……♪」
美月	「えい♪」
美星	「えいっ！」
美月	「ふふ♪ お兄さ〜ん♪ んん♪ えへへ♪ やっとお兄さんとくっつけました〜♪」
美星	「はあ〜……♪ お兄とこうして抱き合うのすっ ごい久しぶり……♪ んん〜♪ えへへ〜♪ お兄い〜……♪ んん♪ お兄い、お兄い〜…… …♪」

美月

「お仕事で毎日顔も合わせてましたし、お話もしてましたけど、こうやって私達3人つきりになるのは本当に久しぶりでしたから……はあ……♪ んん♪ 本当にどうにかなっちゃうかと思いました♪」

美星

「ん、今の内にお兄成分補給しないと……ん、すうう……、はあああ……♪ ああ……♪ お兄い……♪ ん、すうう……はあああ……♪ お兄い……♪ お兄い……♪」

美月

「ふふ♪ お兄さん、私もいっぱいお兄さんの香り補給しちゃいますね？ ん、すうう……♪ ……はあああ……♪ えへへ♪ もう一度お……♪ すうう……♪ ……はあああ……♪」

美月

「ああ♪ お兄さんの汗が混じった男性の香り……♪ すっごく甘くて美味しそうな香りがありますう……♪」

美星

「ん、お兄い……お兄い……♪ んん……はあ、はあ……♪ お兄い……♪ ん……んん♪ お兄い……好き……♪ 大好き……♪ お兄い……♪」

美月

「ああ……♪ お兄さん……♪ 私も好きです♪
大好きです……♪ はあ、はあ……♪ お兄
さんと抱き着くのも……お兄さんに撫でられる
のも、お兄さんにしてもらえると、全部好き
です……♪」

美星

「ん、ねえ……お兄？ もうあたしダメ……お兄
とキスしたい……いっぱい……忙しくてできな
かった分、いっぱいベロ絡ませながらろれ
ろって、エッリなキスしたい……」

美月

「ふふ♪ お兄さん、私の事は気にしないで先に
美星としてあげてください♪ はい♪ お兄さ
んを想って何度もオナニーしちゃうくらい美星
がお兄さんを恋しがってるの、知ってますから
♪ 沢山可愛がってあげてください♪」

美星

「はあ、はあ……♪ ん……お姉、ありがと……
♪」

美星

「ん、はあ、はあ……お兄？ こっち向いて？
もっといっぱいあたしとキスして？」

美星

「はあ、はあ、はあ……♪ ん、お兄い……ん
……ちゅ♪ はぶっ♪ ん、ちゅ……ちゅ、ん
……ん、ちゅ♪」

美星

「ん、ちゅ♪ ちゅ、ちゅ……ん……ちゅ♪
ん、はあ、はあ♪ お兄い……もっとお……♪
んちゅ♪ もつろ舌らひて？ はぷ♪ ん、
れる、れるれる……♪ ん、んん♪ ちゅ♪
はむ♪ ん、ちゅ♪ れろ、れるれるれる
♪」

美月

「ふふ♪ 美星ったらキスのオネダリまでし
ちゃって可愛い♪ 始めの頃は恥ずかしがって
全然素直になれなかったのにね♪」

美星

「ん、ぷはあ♪ はあ、はあ……だって……お兄
にはもう大好きって言っちゃってるし、何度も
エッチしてきてるし……何より、エッチしたす
ぎて羞恥心とかどっかいつちゃってるし……
ん、お兄い……ちゅ♪ ん……ちゅ♪」

美月

「むう……美星ばかりキスしてもらっていい
な……ねえお兄さん？ 美星とキスしながら
でいいですから私の事もっとぎゅってしてく
ださい」

美月

「思いつきり、私が壊れちゃうくらい思いつきり
抱きしめて欲しいんです。お兄さんの気持ち……
……愛してるって気持ち……体で教えて欲しいん
です……ダメ、ですか？」

美月

「あ♪ え、えへへ♪ お兄さん、ありがとうございます♪ ん、はあ〜……♪ はふう〜……♪ えへへ♪ お兄さんあったかいですう……♪ ん、はあ〜……♪ はあ、はあああ〜……♪ ……♪ ん、あうう……♪」

美星

「ん、ちゅ……んむう〜……お兄い……今はあたしの時間なんだから……ん、ちゅ♪ れろ、れろろ……もつとあたしとのキスに集中して？ じゃないと……ん、ちゅ♪ 今より激しいキスしちゃうんだから……ん、あむう！」

美星

「んちゅ♪ ん〜♪ じゆる♪ じゆるる♪ ん、じゆる♪ じゅりゅりゅりゅ〜……！ ん、じゆるる♪ んちゅ♪ ちゅ……ん〜ちゅ♪ ちゅ、はむ♪ ちゅぷ♪ ん、ちゅ♪ れろ、れろろろろろろ〜♪」

美星

「ん、はあ、はあ♪ お兄い♪ ん、じゆる♪ じゅりゅりゅりゅ〜♪ ん〜ちゅ♪ はあ♪ お兄い、好き……♪ はぷ♪ んちゅ♪ ん〜♪ んぷぷ！ ん、じゆる♪ じゆるるる〜♪ ん〜ちゅ♪ れろ、れろろろ〜♪」

美星

「ん、しゅきい〜……♪ ん、お兄い〜……♪ ちゅ♪ じゆるる♪ じゅりゅりゅりゅ〜♪ ん、ちゅ♪ はぷ♪ んん♪ もつろ〜♪ もつろ舌絡めて〜……んぷ♪ じゆるる♪ んちゅ♪ れろろろろろろ〜♪」

美月

「ん、はあ、はあ……あ。お兄さんと美星の口から涎が首に垂れて……」

美月

「せっかくのお兄さんと美星の涎……このまま零しちゃもったいないですから……ん……れろ♪ えへへ♪ 私が舐めとってあげますね♪」

美星

「ん、れろれろ……♪ ん？ むう……お兄つてば、お姉に顔舐められてからキスが雑になつて……むう……はぷっ！ んちゅ！ れりゅ、れろれろれろ……！ ん、じゅるる！ じゅぷっ！ ん！ じゅるる！ じゅりゅりゅりゅ……！」

美星

「んん！ んちゅ♪ はぷっ♪ ん……ちゅ！ あむ♪ ん、じゅるる♪ じゅるるる……！ ……ん、ん……！ ぷはあ！ はあ、はあ……ん、ちゅ♪」

美星

「もう……あむ、ちゅ、ちゅ♪ れろ、れろれろ……ん、はあ、はあ……ん、今はあたしだけを見てって言ったでしょ？ ん、ちゅ……れろれろ……ん、じゅる、じゅるるる……♪ ん……ちゅ♪」

美月

「ん、れろれろ……♪ ふふ♪ 舐めても舐めてもお兄さんと美星の口から唾液が零れてきて……んちゅ♪ じゅるじゅる♪ んっ♪ まるで飲み放題のドリンクサーバーみたい♪ れっ、ちゅ♪ れろっっ♪ れろれろれろれろっっ♪ んっ、ちゅ♪ ちゅ、ちゅ♪」

美月

「はあ……♪ お兄さんの顔、舐める度にお髭がチクチクして面白いです♪ んっ……れっっ……♪ んちゅ♪ れろ♪ れろれろれろれろ……♪ んっ……ちゅ♪ ちゅ、ちゅ♪」

美星

「んん♪ ちゅ♪ はあ……♪ お兄い……♪ お兄い……♪ ん、ちゅ♪ れろれろ……♪ ん、お兄の唾液美味しいい……♪ ん、ちゅ♪ れろれろ……♪ ん、これ、いくらでも飲めちゃう……♪ んっ……ちゅ♪ はっっ♪ ん、れろ、れろれろ♪ んっちゅ♪」

美星

「ねえ、お兄はあたしの唾液好き？ ん、そっか。お兄もあたしの唾液好きなんだ……それなら……んっ……くちゅ……んむ……んっ……くちゅくちゅくちゅくちゅくちゅくちゅくちゅくちゅくちゅ♪」

美星

「ん♪ お兄……あたひの唾液……いつふあいの
んれ？ ん……あぶっ♪ ん……じゆる♪
じゆるる♪ じゆるるるるるるうううううう
ううう♪ んふうう……♪ ん、もっろお……
♪」

美星

「んふう♪ じゆる♪ じゆるる♪ ん、んん♪
じゆりゆ♪ じゆりゆりゆりゆりゆりゆりゆ
りゆううううううう……♪ ん、んむう……
♪ んん♪ んうう……ん、んむう……♪
ぷはあ！ ん、はあ、はあ、はあ……すうう
う……はあああううううう……♪」

美星

「ん、あむ♪ ん、んん……」くっ、ごくっ、ごく
くっ、ごくっ……ぷはあ♪ はあ、はあ……
……♪」

美星

「どう？ 口の中でいっぱいかき混ぜたアイドル
の唾液、お兄にしか飲ませない、あたしの唾液
ジュース、美味しかった？ ん、そっか……え
へへ……えへへへへ……♪ そっかそっか
♪ ん、あたしもお兄の事好きだから……
ん、ちゅ♪ えへへ♪ いっぱい飲ませてくれ
てありがとね！」

美月

「むううう……美星？ 美星ばかりお兄さ
んといい雰囲気作ってズルイ……そろそろ私に
もお兄さんとキスさせて……？」

美星

「わっ！　ちょ、お姉！　わ、分かったからそんな押さないでってば……！　んもう……」

美月

「えへへ♪　やっとこれでお兄さんとキスできます♪　ん、はあ、はあ……♪　ああ♪　お兄さん……ん、ちゅ♪　ちゅ……ちゅ♪」

美月

「お兄さんの唇、美星の涎で湿ってて、とってもプニプニですね……あ、いや！　別に嫌とかじゃなくてですね！　むしろ逆で……お兄さんも美星も皆大好きなので、こう、二人一緒にキスしてるみたいで……えへへ♪　はい、とっても嬉しい気分です♪」

美月

「ん、はあ、はあ……♪　えへへ♪　お兄さん♪　もっとお兄さんからもキスしてください♪　私も美星と一緒に何日も我慢してたので……えへへ♪　いっぱいお兄さんからキスして欲しい……愛して欲しい……私の事大好きだって伝えて欲しいです♪」

美月

「ん、あ……♪　お兄さん……♪　ん……ちゅ♪　んちゅ♪　れろ……ん……ちゅ♪　れろ♪　れろれろ……♪　んちゅ♪　ん……んちゅ♪　ちゅ、ちゅ♪」

美月

「ん、はぷ♪ れろれろ……♪ んちゅ♪ えへへ♪ お兄さん……♪ ちゅ♪ れろ、れろれろ……ん、ふふ♪ あむ♪ んちゅ♪ ちゅ、ちゅ♪ 好き♪ 好きです……お兄さん……♪」

美星

「ん、はあ、はあ……お姉とお兄のキス……ん、ごくっ……凄くエッチで艶めかしくて……お姉、幸せそう……」

美星

「あたしもさつきまであんな蕩けた顔でキスしてたのかな……うわあ……何か想像したらめっちゃ恥ずかしくなってきた……」

美月

「ん、はあ、はあ♪ お兄さん……私とも美星としてみたに、もっとベロを絡ませたエッチなベロチューしてください」

美月

「お兄さんと唾液を混ぜ合わせながらのキス、したいんです……はあ、はあ……ん、お兄さん……お兄さ……ん……」

美月

「はあ、はあ……ん、はぷうっ!? ん、んん………! んむう! ん、じゅるる! じゅるるううう……! ん、んむう………! んちゅ♪ じゅるる♪ ん、ちゅぷっ! んん♪ じゅるるるううう……♪」

美月

「ん、んちゅう♪　んぷうっ！　じゆるるる♪
 ん、んんゝ！　んぷっ！　ぷはあ！　はあ、
 はあゝ……♪　ん、あうう……♪　お兄さんい
 きなり激し……んむうっ！？　ん！　んちゅう
 ゝゝ……！　ん、じゆるる！　じゆるるる
 るうううゝゝゝゝゝゝ！！」

美月

「んむうつ！　ん、じゆるる！　ん、んん♪　ぷ
はあ！　はあ、ん、えぷつ！　んん！　ちゅ♪
んちゅうううう！　んん！　ん、じゆるる♪
じゆるるううう……！！」

美月

「んん♪ お兄ひゃん……！　ん、じゅるる♪
 んむう♪　ん、こんなはげひいきしゅ、ひしゃ
 しぶりれ……んん！？　ん、じゅるる♪　じゅる
 るるうゝゝ♪　んん♪　んちゅ♪　れろる♪
 れろれろれろれろゝゝ♪」

美月

「んふう♪　ん、ちゅぷっ！　んちゅ♪　じゅ
るじゅるじゅるじゅる♪　んん♪　唾液いつ
ふあい飲まひえてくれて……♪　ん、じゅる
♪　じゅりゅりゅりゅ……♪　ん、ちゅ♪
れろれろ♪　んふう♪　しあわしえれしゅう
……♪　んん♪」

美星

「ん、はあ、はあ……あたしもお……ん、お姉とお兄のキス見てるだけなんて嫌……お兄……好き……ん、ちゅ♪ はぷっ♪ ん……れろれろ……んちゅ……ちゅ、ん、ちゅ……れろ……ちゅ、ちゅ♪」

美星

「ん、れろれろ……お兄の零れた唾液……甘くて美味しい……ん、ちゅ……れろれろ……んむ、あ、お姉の口からも垂れてきて……ん、あむ……ん……んむっ、じゅる……じゅるる♪ ん、ん……じゅるるる……♪」

美星

「んむう♪ ん……ぐく、ぐく……はふう……♪ ん、ちゅ♪ れろれろ……人の唾液……本当に甘くて……ん、れろ……んちゅ♪ ん……ちゅ、ちゅ♪ 美味しい……♪」

美月

「ん、んむう♪ じゅるる♪ んちゅ♪ じゅぷっ！ ん、んん♪ お兄ひゃん……♪ ん、れろれろれろれろれろれろれろれろれろ♪ ん、じゅるる♪ じゅりゅりゅりゅ……♪ ん、んふう♪ ん、れろれろ♪ ん、ちゅ♪」

美月

「んふう♪ お兄しゃん、お兄しゃん……♪ ん、じゅるる♪ んちゅ♪ ん、んん♪ しゅきれすう♪ ん……もっろお……もっろいっふあいきしゅしへくらひゃい……♪ アイドルのエッチなきしゅう……♪ お兄しゃんにあげましゅからあ……♪」

美星

「ん、お兄……ちゅ♪ 好き……お兄い……大好き……ん、ちゅ♪ れろ、れろれろ……」

美月

「ん♪ お兄しゃん……♪ しゅきれすう
……♪ ん、れろ、れろれろ……んちゅ♪
ん、ちゅ♪ はぶっ♪ じゆる♪ じゆる
るうう……♪ んん♪ しゅきれすう♪
ん、お兄しゃん……ん♪」

美星

「お兄……しゅきい……♪ ん♪ ちゅ♪ れ
ろ、れろれろ……♪」

美月

「お兄しゃん……♪ んん♪ しゅきい……♪
ん、ちゅ♪ じゆるる♪ ん、んふう……
♪ じゆる♪ じゅぶぶっ！ んちゅ♪ んん
♪ しゅきれすう……♪」

美月

「ん、ん！ んふう♪ お兄しゃん……ん、ん
ふう♪ んん♪ ぷはあ♪ はあ、はあ……♪
ん、最後は私もお……」

美月

「ん……くちゅくちゅくちゅくちゅくちゅく
ちゅくちゅくちゅ♪ くちゅくちゅくちゅく
ちゅくちゅくちゅくちゅくちゅ♪ ん、んむう
……♪ いきまふね……」

美月

「ふふ♪ 私とお兄さんの香りが混じった口臭、楽しんでもらえたみたいで嬉しいです♪」

美星

「ん、私もお兄に口臭はあはしたいし……ねえお姉？ どうせならさ、お兄の左右から交互に口臭嗅がせてあげない？ そっちの方が多分お兄喜んでくれると思うし」

美月

「そうね♪ 美星の言う通り、美星は左から、私は右から……」

美星

「さっきはお姉からだったし、今度はあたしから……」

美星

「すうう……はあああ……」

美月

「私も……はあああ……」

美星

「もう一回……はあああ……」

美月

「もう一度……はあああ……」

美星

「はあああ……はあああ……」

美月

「そうね。お兄さんにはもっともっくと喜んで
もらいたいし、アレ、出しちゃおっか」

美星

「んん？ えへへ♪ お兄にはまだ内緒♪ まあ
どうせすぐ分かるし、期待されすぎても困っ
ちゃうけど」

美月

「お兄さん♪ 私達は少しだけ着替えてきますか
ら先にベッドで休んでください♪ きっと喜
んでくれると思いますので♪」

美星

「今日はとことんまでエッチするんだから今の内
におちんちんの覚悟しておいてよね？」

美月

「はい♪ 美星の言う通り、今日はおちんちん寝
かせませんので♪ この後もしっぱい私達ジェ
ミニの事、愛してくださいね♪」

美月

「んん、ちゅ♪」

美星

「んん、ちゅ♪」

	トラック03
美星	「じゃ〜ん♪ お兄お待たせ〜♪」
美月	「えへへ♪ お待たせしました、お兄さん♪ それで、えっと……どう、ですか？ 私達のアイドル衣装？」
美星	「って言っても、お兄はもう見慣れてると思うけどね。この前のドームライブでも着てたし」
美月	「ん、でも改めてお仕事以外で……それもエッチする為だけに外に持ち出したのは初めてだから……」
美星	「まあ、ね。ほんととは持ち出しの衣装だし、もお兄以外の人にバレたら怒られちゃうけど」
美月	「うん。でも今日はどうしても……ドームライブを成功させて、ここまで私達を連れて来てくれたお兄さんにお礼をしたかったので……私達、ちょっと悪い子になっちゃいました♪」
美星	「って事でさ。お兄。改めてあたしとお姉のアイドル姿、どう？」
美月	「えへへ♪ お兄さん、ありがとうございます♪ 改めてその……綺麗って……可愛いって言われると、やっぱり嬉しいです♪」

美星

「ま、まあ？ あたしとお姉が超絶綺麗で、超絶可愛いなんて知ってるけどね？ ん、まあでも……ん、んんゝ……えへへ……お兄、ありがと……♪」

美月

「ではお兄さん♪ 日頃の感謝も込めて、私達大人気アイドルのジェミニがご奉仕してあげますので、ベッドの上、失礼しますね？」

美星

「お兄は仰向けで横になってくれればいいから。後は全部あたしとお姉に任せて？」

美月

「えへへ♪ ん……♪ お兄さんの体、とってもあったかいです♪」

美星

「お兄……♪ んん……はふうゝ……アイドル衣装でお兄と添い寝なんて、ん、何だか夢みたい……」

美月

「えへへ♪ お兄さん……お耳真っ赤にして可愛いです♪ ああ……ほんとに可愛くて美味しそうなお耳……♪」

美星

「ん……お兄……そんな真っ赤にしちゃうくらい興奮してくれてるんだ……ん、ならさ……もつとサービスしてあげる……んゝ……ちゅ♪」

美星

「はぶ♪ ん、ちゆ♪ ちゆ、ちゆ♪ あはは♪
お兄ったら、お耳に軽くキスされただけなの
にピクピク震えて♪ 生まれたての赤ちゃんみ
たいで可愛いかも♪ んゝちゆ♪ ちゆ、ちゆ
♪」

美月

「ん、私もゝ……んゝ……ちゆ♪ ちゆ♪ ん…
…ちゆぶ♪ ちゆ……んちゆ♪ 耳たぶも…
…お口で啜えるみたいにな……はむ♪ はむ、
はむはむ♪ んゝ……ちゆ♪ ちゆ、ちゆ♪」

美月

「えへへ♪ お兄さんの耳たぶ、はんぺんみたい
に柔らかくてふわふわしてて……はむ♪ ん
ちゆ♪ あむ♪ あむあむ♪ んゝ、ちゆ♪
いつまでも舐めていられます♪」

美月

「ん、ちゆ♪ れろれろ……♪ んゝちゆ♪
ちゆ、ちゆ♪ ん、はむ♪ れろ、ん、ちゆ♪
次はゝ……お耳の穴にな……んゝ……ちゆ♪
キスしてあげますね♪」

美星

「ん、えへ♪ お兄？ なゝにな？ そんなにお
股もじもじして……そんなに内股だと女の子み
たいだよ？ んゝちゆ♪ ふふ♪ れろ♪
ちゆぶ♪ んゝ……ちゆ♪ ちゆぱ♪ んゝ、
ちゆ♪ ちゆ、ちゆ♪」

美星

「ねえ……お兄？　もしかして……ん、ちゅ♪　はぶっ♪　ちゅ♪　んちゅ♪　ちゅ……ちゅ♪　えへ♪　お兄のこゝこ♪　おちんちん♪　切なくなってきた？」

美月

「ふふ♪　私達のキスで勃起してくれるなんて……ん、ちゅ♪　嬉しい♪　れろ……ちゅ♪　ちゅ、ちゅ……♪　はぶっ♪　ん、ちゅ♪　ちゅ、ちゅ♪」

美星

「んん♪　えへへ♪　あたしも、ん、ちゅ♪　れろれろ♪　お兄には気持ちよくなつて欲しいから……あむ♪　ん、ちゅ♪　ちゅ、ちゅ♪　はぶっ♪　ん……ちゅ♪　ちゅ、ちゅ♪　今よりももっと……耳の奥まで舌ねじ込んで、お耳♪　犯してあげる♪」

美星

「ん、れ……んぶ、じゆるるる♪　んちゅ♪　れりゅ……じゆるる♪　ん、れろ♪　れろれろれろ……♪　ん、ちゅ♪　じゆる♪　れろ、れろれろれろ……♪」

美月

「ふふ♪　私もお……お兄さんのお耳の中、失礼しま……す……ん、じゆるる♪　じゆるるる……♪　ん、れろ♪　れろれろ……♪　ん、ちゅ♪　ん……ちゅ♪　んちゅ♪　じゆるる♪　れろれろれろ……♪」

美星

「ちゅ♪ ん、んゝ……ぷはぁ♪ はぁ、はぁ……♪ ん、えうう……お兄ってば、耳の中がゴミでいっぱいゝ……うっ……えうう……お兄、最近耳掃除サボってるでしょゝ……」

美星

「ん、れろれろ……まぁ……あたし達の為に一生懸命お仕事頑張ってくれてたの知ってるからそんな暇なかったのも分かるけど……ん……スンスン……うっ……うう……おええ……お兄の耳カス、くっさゝ……」

美星

「はぁゝ……んもう……仕方ないからあたしがお兄のくっさい耳カス全部舐めとってあげる。ほんと、こんな事お兄じゃなきゃしないんだからね？ ん、れゝゝ……んちゅ♪ はぷっ♪ ん、じゅる♪ じゅるじゅる♪」

美月

「ん、れろれろ♪ んゝちゅ♪ ん……ぷはぁ♪ はぁ、はぁ……♪ えへへ……♪ お兄さゝん♪ んゝちゅ♪ れろ、ちゅ♪ お兄さんの耳カス、私も沢山舐めとっちゃいました♪」

美月

「ふふ♪ 黄色く湿った耳カスが舌の上に散らばって……ん、れりゅ……んゝ……くちゅくちゅくちゅくちゅくちゅくちゅくちゅくちゅ♪ ん、んふうゝ……♪ 今からゝ♪ これ、ごっくんしひやいますね？」

美月

「んむ♪ ん……くっ、くっ、くっ、くっ……
くっ……ん、んむう……んん……ぷはあ♪
はあ、はあ、はあ……はあ……♪ えへへ
♪ お兄さんの耳カス、沢山いただいちゃいま
した♪」

美月

「ん、えう……♪ 凄いです……ねっとりした粒
が喉に引かかって……うっ……えうっ……
ん、はうう……♪ お兄さんの濃い味が全身
に巡って……」

美月

「はあ、はあ……♪ ん、お兄さ……私の口
臭……お耳でいっぱい感じてください♪」

美月

「はあ……ん、はあ、はあ……♪ ん、お兄さん
……♪ すうう……はああ……
……♪」

美月

「えへへ♪ もう一度お……すうう……
♪ はああ……♪ ん、
はあ……♪ はあ……すうう……
……♪ はああ……♪」

美月

「ああ……♪ お兄さん……♪ ん、ちゅ♪ 好き
です……♪ 大好きです……♪ 大好きなお兄
さんのお耳なら、どれだけ汚くても愛せます♪
いえ、愛してあげたいんです♪ はあ、はあ
……♪ お兄さん……♪ ん……ちゅ♪」

美星

「ん……お兄……あたしも……んん……♪ あたしもお兄にいっぱい口臭嗅がせてあげる……ん、耳カスを唾液に混ぜ込んでえ……ん、ちゅぷ……くちゅくちゅ、くちゅくちゅくちゅくちゅくちゅくちゅくちゅ……」

美星

「ん、あむ……ん、ごくっ、ごくっ、ごくっ、ごくっ……ん、んん……んむっ……ぷはあ！はあ、はあ、はあ……はあ……♪ ん、お兄……いっぱい嗅いで？ お兄の臭い耳カスとあたしの唾液が混じった口臭、いっぱい嗅いで？」

美星

「すうう……はあああ……ん、すうう……はあああ……♪ はああ……♪ すう……ん、はあああ……♪」

美星

「って、わわっ……息でまた耳が湿っちゃった。ん、ん……ちゅ♪ れろ、ん……ちゅ♪ はああ……ん、また舐めて綺麗にあげる」

美月

「ん、れろ、れろれろれろ♪ ん……ちゅ♪ちゅ、ちゅ♪ はあ、はあ……♪ お兄さん……えへへ♪ 好き……大好きです……♪」

美星

「ん……お兄……あたしも……お兄……好き……♪ん……ちゅ♪はぷっ♪ちゅ♪ん……ちゅ♪好き……大好き……♪」

美月

「お兄さん……♪好きです♪大好きです♪」

美星

「お兄……好き……はぷっ♪ん、ちゅ♪れろろ……ん、好き……♪大好き……♪」

美月

「いつも私達の事第一に考えてくれて……」

美星

「どんな時もあたし達の味方でいてくれて……」

美月

「毎日いっぱい愛を囁いてくれて……」

美星

「エッチしたいって頼めばいつでもエッチしてくれて……」

美月

「アイドルの私達を……」

美星

「恋人のあたし達を……」

美月

「ファンの皆の私達を……」

美星

「お兄だけのあたし達を……」

美月

「全部ぜっくんぶ好きになってくれて……」

美星

「全部ぜっくんぶ愛してくれて……」

美月

「お兄さん……♪」

美星

「お兄……♪」

美月の

「本当にありがとうございます♪ ん……ちゅ♪」

美星の

「ほんと、ありがとね♪ ん……ちゅ♪」

美月

「ん、はあ、はあ、はあ……♪ えへへ♪ お兄さん♪ お疲れ様でした♪ どうでしたか？ 私と美星の耳舐めご奉仕は？」

美星

「はあ、はあ……ん、まあ何も言わなくてもこれ……お兄のおちんちん見れば分かるけどね？ えへ♪ こんなに勃起させちゃって……♪ お兄のエッチ♪」

美月

「ふふ♪ お兄さんも、もう我慢できませんか？ 早く私達とエッチしたいですか？」

美星

「ふ……ん……そっか……♪ お兄ってば、早くあたし達のおまんこでぴゅっぴゅしたいんだ……♪ ふ……ん？ そっかそっか……♪」

美月

「お兄さん♪ でしたら私、お兄さんがエッチしたいってオネダリする所を見てみたいですよ♪」

美星

「あ、お姉ナイスアイデア！ そうだよね……いつも何だかんだあたし達がお兄にオネダリしてる立場だし、たまにはお兄からエッチした……いってオネダリするの聞いてみたいかも」

美星

「って事で……ほらお兄？ あたし達とエッチ
したいって言うてみて？ お姉とあたしのおま
んこで勃起おちんちんシコシコぴゅっぴゅした
い……って。おまんこにぴゅっぴゅしたいって
オネダリして？」

美月

「お兄さん。お願いします。お兄さんの可愛らし
いオネダリ……私達に聞かせてください♪」

美星

「ほ……ら……♪ お……に……い……？……？」

美月

「ね……え……♪ お兄……さ……ん……？……？」

美月

「ふ……あ……る……？……♪ お兄さんのオネダリ、とっ
ても可愛いですう……♪ こんなに可愛いら
しいオネダリ初めて聞きました♪」

美星

「あはは♪ ふ……ん……♪ そ……つ……か……♪ そ……つ……か……
そ……つ……か……♪ そんな女の子みたいにオネ
ダリしちゃうくらい、あたし達のおまんこでお
ちんちん気持ちよくしてほしいんだ……♪」

美星

「う……ん……♪ そうだな……♪……お兄も恥を忍んでこ
こまでしてくれたんだし……希望をかなえてあ
げたい所なんだけど……ねえお姉？ どうす
る？ おまんこしてあげる？」

美月

「そうだね……♪……お兄さんも頑張ってくれたし……
……私達も早くお兄さんとエッチしたいから……
……」

美星

「ふふ♪ な～ら～……お兄？」

美月

「お兄さん……♪」

美星

「今からあたしとお姉のおまんこで♪」

美月

「お兄さんの勃起して苦しそうなこ……おちんちんを♪」

美星^ㇿ

「気持ちよくしてあ～げ～……な～ら～っい♪」

美月^ㇿ

「気持ちよくしてあ～げ～……ませ～っん
♪」

美星

「あはは♪ お兄ったら啞然とした顔してる♪
ええ？ 何？ もしかしてあたし達ならすぐおまんこシテくれると思ってたの？」

美月

「ふふ♪ 別にお兄さんとしたくない訳ではない
んですよ？ 実際、私も美星も、お兄さんとキ
スした時からずっとお股濡らしちゃって……
今も子宮からお汁が漏れるのを必死で我慢して
るんです♪」

美星

「いや！ あ、あたしは別にそんな、お姉みたい
におまんこ濡らしたりはしてないけどね！？
ま、まあとにかく……エッチしたくない訳じゃ
ないってのは本当なんだけど……」

美星

「でもお兄とエッチする時っていつつもあたし達が好き放題されてイカされっぱなしでしょ？ それじゃあ何か面白くないし、マンネリになっちゃうじゃない」

美月

「ですので、今日はもう少しお兄さんに我慢して貰いたくなって思いました♪ はい、所謂『焦らしプレイ』という物です♪」

美星

「ま、後でいっぱいおまんこしてあげるから今は我慢して……って、ええ……お兄、滅茶苦茶悲しそうな顔してるんだけど……ほら、大人なんだからもう少しシャキっとしてってば……」

美月

「でも、お兄さんのこんな捨てられた子犬みたいな顔初めてで……ああ……♪ エッチを焦らされてるお兄さん、とっても可愛いです……♪ んん♪ はあ、はあ、はあ、はあ……♪」

美星

「え？ あ、あれ？ 何かお姉ってば、いつもと違うっていうか……あ、あれ？ あれあれ………？」

美星

「ま、まあとにかく！ エッチはお預けだけど、このままじゃ流石にお兄も辛いだろうから……ん、次はあたし達のお口で、おちんちん、気持ちよくしてあげる♪」

美月

「はい♪ 本番のエッチの前に、いっぱいっ
ぱい、私達アイドルのお口味わってくれると嬉
しいです♪」

美星

「お兄にいっぱい仕込まれたあたし達のお口まん
こで情けなく喘がせてあげるんだから♪」

美月

「お兄さん♪ 楽しみにしててくださいね♪」

美星

「お兄♪ 覚悟してなさいよね♪」

	トラック04
美星	「じゃあこれ、お兄の勃起おちんちん♪ズボンから出しちゃうね？」
美月	「お兄さんは体の力を抜いて楽にしてください。全部、私と美星でしてあげますので♪」
美月	「では、ズボン、失礼します……♪」
美星	「ん……パンツも……えい……！　えい、えい……！」
美月 ⁰⁹	「わっ♪　わあ~~~~~♪」
美星 ⁰⁹	「うわっ！　えっ、ええ~~~~！？」
美星	「え、ちよっ、お、お兄？　おちんちん、今まで見た事ないくらいおっきくなってるんだけど……？」
美月	「美星？　もしかしたらさっきの焦らしプレイがお兄さんにはツボだったのかも」
美星	「え~~~~……お兄ってああいうのが好きなんだ……ふ~~~~ん……お兄のエッチ。変態。スケベ」
美月	「でもお兄さんも今までで一番興奮してくれてるみたいですし、私達の目論見は成功したみたいで良かったです♪」

美月

「ん……お兄さんの美味しそうな香り……♪
ん、すん♪ すんすん……♪ すうう……♪
……♪……♪……♪……♪……♪……♪
……♪」

美月

「はふうう……♪ 何でしょう……とつ
ても臭くて、酸っぱくて……おしっこのツンと
した匂いも混ざって……」

美月

「はあ、はあ……♪ あうう……♪ こんな濃
くてエッチな匂いを嗅がされたら……はあ、
はあ……♪ ダメです……♪ ん、私……お股
がまたぐちゅって濡れて……♪ ん、はあ、
はあ、ん、はあ、はあ……♪」

美星

「ん、すんすん……すうう……うっ！
おえええ……！ けほっ！ けほっ、け
ほっ……！ ん、うう……お兄、これ……おち
んちん臭すぎい……」

美星

「え？ 何？ もしかしてお兄、今日お風呂入っ
て来てないの？ う……くっさ……はあ……
……ほんと、いくら忙しくてもお風呂サボ
るとかありえないって……」

美星

「それともあたし達とエッチするからワザとお風呂に入ってこなかったとか？ まあ流石のお兄もそこまで変態ではない……って、え？ 何？ 本当にそうなの？ うわ……流石にちよつとそれは……」

美星

「うっ……何かおちんちんの先っぽ……カリ首に白いのいっぱい付いてるし……すんすん……はぁぁぁ……これ、あれだよな？ チンカスだよな？」

美月

「ふふ♪ お兄さんったら、私達にこんなご馳走を食べさせてくれる為にお風呂を我慢してたなんて、えへへ♪ とっても嬉しいですよ♪ ありがとうございます♪」

美星

「お姉ってば、何でもかんでもお兄を甘やかしすぎ！ そうやって甘やかすからお兄も調子に乗っちゃうんだよ？」

美月

「ええ？ でも美星だってお兄さんの精液飲んだりお掃除フェラするの大好きでしょ？」

美星

「べ、別に好きじゃないし！ お兄がおちんちん洗うの下手だから、仕方なくあたしが口で綺麗にしてあげてるだけで……」

美月

「もう、美星ってばいつまでたっても素直じゃないんだから」

美月

「なら素直じゃない美星は後回しで、先に私からフェラしてあげますね♪」

美月

「お兄さんの唾液と耳カスごっくんした私のお口、いっぱい感じてください♪」

美月

「んゝゝゝ……ちゅ♪ はぶっ♪ ん、ちゅ♪
ちゅ♪ れろ……んゝ……れろれろ……♪ ん
ちゅ♪ ちゅ……れろ♪ んゝ……ちゅ♪
ちゅ、ちゅ♪」

美月

「ふふ♪ アイドルの柔らかい唇♪ んゝちゅ♪
ちゅ、ちゅ♪ もっと押し付けちゃいますね
♪ ん、ちゅ♪ れろ、れろれろ♪ んゝちゅ
♪ ちゅ、ちゅ♪」

美星

「むっ……お兄、お姉のちんぽキス、そんなにいいんだ。うう……あたしだって……ん……ちゅ
……れろ……れろれろ……ん、ちゅ……んむ……
……ちゅ、ちゅ♪ んゝ……ん、ちゅ♪ ん、
ちゅ……」

美星

「うっ……臭い……それにチンカス塗れで……う
……ん、ちゅ……れろれろ……ん、はあ……こ
んなに臭いおちんちんにキスなんて……ん、
ちゅ……はぶ……ん、ちゅ……れゝ……れろれ
ろ……んむ……ん、ちゅ……ちゅぶっ……ちゅ
……ちゅ」

美星

「ん、これ……キスする度にチンカスが唇について……ん、はむ……ん、ちゅ♪ れろ……れろれる……ん……ちゅ。ちゅ、ちゅ……♪
ん、あむ、あむあむ……ん、ちゅ……れろろ」

美星

「ほんとに臭い……すごい臭い……けど……ん、ちゅ……れろ……れろれる……お兄の……好きな人のチンカスだから……ん、ちゅ……れろれる……ちゅ、ちゅ……不思議と食べられる……ん、ちゅ……れろれる……ん、変なの……ちゅ、ちゅ♪」

美月

「はあ、はあ……お兄さん……ん……ちゅ♪ れろれる♪ んちゅ♪ 次はこのまま……お口で包み込むように啜えてあげますね♪」

美星

「えゝ！ またお姉からってズルくない？ 次はあたしからさせてよゝ！」

美月

「だゝめ♪ 早い者勝ちだもん。先に私。美星はまた後でね？」

美星

「むう……」

美月

「じゃあお兄さん？ おちんちん、いただきますね？ あゝ……むう♪」

美月

「ん、じゅるる♪　じゅるるるうううう……♪
ん、んふふ♪　んうう……ちゅ♪　じゅる♪
んぷっ！　ぶぶぶっ！　ん♪　ちゅ♪　れろ
♪　れううろれろれろれろおうう……♪
ん、じゅる♪　じゅるるるうううう……♪」

美星

「はあう……お姉ってば……すっごく美味しそう
に啜えて……うう……お兄のチンカス全部食べ
られちゃうじゃん……」

美星

「お姉がその気なら……ん、あたしはお兄の金玉
舐めておちんぽミルクいっぱい作ってもらうん
だから……んう……ちゅ♪　はむ♪　ん、はむ
はむ……んう……ちゅ♪　れろ、れろれろ……
んう、ちゅ♪　ちゅ、ちゅ♪」

美星

「ん、お兄の金玉おつも……ん、れろ、れろれろ
……ん、れううう……ん、ぷはあ……はあ、
はあ……たこ焼き見たいに柔らかいの中は
ずっしりしてて……ん、ちゅ♪　あむ……ん、
れろ、れろれろ……んう……ちゅ♪　ちゅ、
ちゅ♪」

美星

「まったく……どれだけ興奮すればここまで大き
くなるんだか……ん、ちゅ……れろ、れろれろ
……」

美月

「ん、じゅるる♪ じゅるるうう……ん、ん
むう……ん、んむ♪ れろ♪ れろれろれろ
ろ……ん、お兄しゃん……ん、んぶ♪ ん、ん
ん♪ じゅるる♪ じゅるるうう……ん、
ん、ぶはあ♪ はあ、はあ……♪」

美月

「はふう……♪ お兄さんの、本当におつきく
て……ん、れろれろ♪ ふふ♪ 顎が外れちゃ
うかと思いました♪ ん……ちゅ♪ ちゅ、
ちゅ♪」

美月

「汗やおしっこがこびり付いて……んん♪ れろ
れろ……んちゅ♪ じゅるる……ん、んん……
♪ 黄ばんだ先っぽも……ん、れ……
ちゅぶ♪ じゅるる♪ じゅるるるるるうう……
……んちゅ♪ じゅるる♪ ん、んん
♪ じゅりゅりゅりゅりゅうう……
……♪」

美月

「じゅるる♪ ん、んぶぶっ♪ ん、んん♪ じゅ
るる♪ じゅるるるうう……
ん、じゅるる♪ じゅりゅりゅりゅ♪ ん、
じゅぼじゅぼじゅぼ……♪ ん、じゅる
♪ じゅるるるるるうう……
♪」

美月

「ぷはあっ……んはあ……はあ、はあ……♪
ふふ♪ ん……「くっ、くっ、くっ……
ん、ん……♪ ぷはあ……♪
はあ、はあ……♪ えへへ♪ お兄
さんの汚れ、いっぱい舐めとっちゃいました
♪」

美星

「ん、はあ、はあ……お姉？ そろそろあたしに
もお兄のおちんちん……」

美月

「ふふ♪ ん、美星も待たせちゃってごめんね？
さ、お兄さんももっと舐めてもらいたいみた
いだし美星も……」

美星

「ん、お兄？ 今度はあたしのお口ご奉仕楽しん
で？ いっぱい気持ちよくなってくれていいか
ら……ん、あ……んむう……♪」

美星

「ん、ん♪ じゆる♪ じゆる♪ ん、ん
……！ ん、じゆるる♪ じゆるるううう
……♪ ん、ん♪ お姉の唾液とお兄の
我慢汁う……ん、じゆるる♪ んちゅ♪ ちゅ
……れろ、れろれろれろ……♪」

美星

「ん、いつふあいエッチなお汁混じって……ん、
じゅぶじゅぶじゅぶじゅぶ……ん、んん♪ん
ぷっ♪んぷっ♪んぷっ♪んぷっ♪ん、
んん♪じゅる♪じゅるる♪ん……ちゅ
れるろ♪れるろろ♪んぷう♪じゅるる
♪じゅうるるる……♪」

美月

「美星ったら、臭い臭いっていいながら美味しそ
うに啜えて♪お兄さん？私も……こっち♪
お兄さんの精子が沢山詰まった金玉。いっぱ
い愛してあげます♪」

美月

「はあ、はあ……♪ああ♪お兄さん……好き
……♪私達の為にもっとも……と♪いっぱ
い精子作ってくださいね♪ん、ちゅ♪は
ぷっ♪ん、ちゅ♪れる……れるろ……♪
んふ♪ん……ちゅ♪ちゅ、ちゅ♪」

美星

「ん、んぷう♪じゅるる♪じゅぶっ！ん、
ちゅ♪はぷっ♪ん、じゅるる♪じゅりゅ
りゅりゅ……♪ん、んん♪お兄い……♪
れるろれるろ……♪ん、しゅきい……
♪おちんちん……ん、もっろお……♪」

美星

「んむう……お兄のチンカスう……段差にまら
残つれれ……んん♪ ちゅぷぷっ！ じゆる♪
んぷっ！ じゅぷぷっ！ んん……お兄いの
全部う……♪ んぷっ！ れろれろれろれろ
ろれろれろれろ♪ んちゅ♪ れろろ♪ れ
ろれろろろろ♪」

美月

「ん、ちゅ♪ れろ♪ れろれろ……♪ ふふ♪
これ……んろ……ちゅ♪ はぷっ♪ ん……
金玉にも毛が生えてて……少しだけ舐め辛いで
す……ん、ちゅ……れろ……れろれろ……」

美月

「ん、れも……んちゅ♪ れろれろ……この毛も
……私のお口に吸い付いてくるみたいで……
ん、ちゅ♪ れろれろ……♪ ちよつと楽しい
です♪ んろ……ちゅ♪ んろろ……ちゅ♪
ちゅ、ちゅ♪」

美星

「んぷう……♪ じゆるる♪ ん、んん♪ お兄
……ん、じゆる♪ んちゅ♪ れろれろ……ん
ふうろ……ん、れろれろ……ちゅぷっ……お
兄い……お兄お兄い……ん、れろれろれろ
……♪ んちゅ……じゆるるろろ……♪」

美月

「ちゅ♪ んろ……ちゅ♪ って、あれ？ お兄
さんの金玉が縮んだり膨らんだりして……こ
れってもしかして……」

美月 「ねえ美星？ これ、一回お兄さんの金玉見てみて？」

美星 「んむ？ ん、じゆるるるうう……ん、ぷはあ！ はあ、はあ……ん、はあ………
…お姉？ 急にどうしたの……って、これ……お兄の金玉すっごい震えて……」

美月 「うん、多分お兄さん、もう射精したくてたまらないんじゃないかなって思っ。今もピクピクしてるし……」

美星 「うわ、本当……ん……ちゅ。ちゅ……れる……
…凄い……少し舐めただけで腰浮いちゃってるじゃん……」

美月 「それでね？ 今日初めての射精になるんだし、せっかくななら二人一緒にお兄さんを気持ち良くしてたいない？」

美星 「ん、分かった。お姉と一緒にお兄のおちんちん気持ちよくする……お兄？ あたし達みたいないな可愛いアイドルの≡フェラなんてお兄しか味わえないんだから、沢山射精してよね？」

美月 「ふふ♪ じゃあ美星？ 一緒に……」

美星

「あゝゝゝ……んむう♪　じゆるる♪　じゆるる
るうゝゝゝ♪　ん、ちゆ♪　れゝろれろれろ
れろれろゝゝ♪　じゆるる♪　じゅぶっ！　ん
ん♪　ちゆぶぶっ♪　ん、ちゆ♪　じゆるる♪
じゆるるるうゝゝゝ♪」

美月

「あゝゝゝ……んむう♪　じゆるる♪　じゆるる
るうゝゝゝ♪　ん、ちゆ♪　れゝろれろれろ
れろれろゝゝ♪　じゆるる♪　じゅぶっ！　ん
ん♪　ちゆぶぶっ♪　ん、ちゆ♪　じゆるる♪
じゆるるるうゝゝゝ♪」

美星

「ん、ぷはあ♪　はあ……ん、お兄……んゝちゆ
♪　れろ、れろれろれろれろ……♪　ん……お
兄い……出してえ？　ん、じゆる……じゆるる
るうゝゝゝ……ん、久しぶりにお兄の精液……
おちんぽミルクう……ん、んん♪　じゆるる♪
じゅりゅりゅりゅゝゝ……♪」

美星

「んん♪　いっふあい飲みらい……ん、じゆる
じゆるじゆるじゆる♪　んん♪　れゝゝ……♪
んちゆ♪　じゆるる♪　ん、お兄の味……
いっぱい口に流し込んで欲しい……♪　ん、
ちゆ♪　れろれろれろれろ……んゝ……じゆる
る♪　あむ♪　ん♪　じゅぶじゅぶじゅぶじゅ
ぶ♪　ん、んんゝ……♪」

美月

「ん、んん♪　じゆるる♪　んゝ……ちゅ♪　えへへ♪　私にもお♪　んゝちゅ♪　れろ♪　れろれろれろ……♪　んゝ……ちゅ♪　はぷっ♪　じゆるる♪　んゝ……ちゅ♪　れろ、れろれろ♪　いっふあいお兄さんのみりゆく……出して欲しいれす♪」

美月

「ん、じゆるる♪　んぷっ♪　前までは本番前とか……ん、れろ♪　れろれろ……♪　レッスン中にもいっぱい飲ませてもらってましたけろ……じゆるる♪　じゆるるる♪　ん♪　最近はそれも無かったので……ん、じゆるる♪　んゝちゅ♪　久しぶりにお腹いっぱい飲ませて欲しいれす……♪」

美星

「ほんと……ん、今までは見境なく襲ってきたくせに……んちゅ♪　じゆるる……んん♪　れろれろれろれろ……ん、まあ……ドームの為に氣を使ってくれたのは嬉しいけどさ……じゆる、じゆるるる……ん、でも少しは手を出してくれたたって良かったのに……」

美月

「ん、ちゅ♪　れろれろ……んちゅううゝ……ちゅ♪　はあゝ……んもう……美星の言う通りですよ？　お兄さんが手を出してくれないから……ん、ちゅ♪　ドームライブ中も、欲求不満で……ん、じゆるるる♪　んん……パンツからお汁零れて大変だったんですからあ……♪　ん、ちゅ♪　れろ♪　れろれろ……♪」

美星

「んんゝ……ちゅ♪ はあ……それもこれも全部
お兄のせいなんだからあ……れろれろ……じゅ
るる♪ ん、あたしとお姉がこんなに……ん、
おちんちんに夢中になっちゃうようなエッチな
子になったのも……んゝ……れろれろれろ
ゝ……♪」

美月

「私達が毎晩お兄さんを想って一人エッチしちゃ
うのもお……んちゅ♪ じゅるるゝ……♪
ん、れろれろ……全部お兄さんが悪いんです
よ？ んゝちゅ♪ はぶっ……♪ ん……れろ
れろれろれろ……♪」

美星

「ん、はあ……アイドルが……本当はこんな事イ
ケナイのに……ん、ちゅ♪ れろ……れろれろ
……こんなエッチな姿……お兄にしか見せない
し……見せられないからあ……ん、ちゅぶ♪
じゅるる……んゝ……ちゅ」

美月

「どうかお兄さん……んちゅ♪ れろれろ……エ
ッチなアイドルにした責任をとって……ん、ん
ちゅゝ……ちゅばあ♪ はあ、はあ……私達
に美味しいミルクいっぱい飲ませてくらひや
いい……♪ んゝ……ちゅ♪ ちゅ、ちゅ♪」

美星

「ん、んん！？ 急におちんちんおつきくなつれ
……！ んむう……！ じゆる♪ じゆるる
るうう……！ ん、んむう……！ こ、
これ……！ もう出るの？ んちゅぶっ♪ ん
……れろれろ……お兄い……おちんぽみりゆ
く出ひやうの……っ？」

美月

「ん、じゅぶじゅぶじゅぶ……！ ん、ん
むう……！ ええれひゆよ？ 出してくらひや
い！ ん、じゆるじゆるじゆるじゆるじゆる
じゆるじゆるじゆる♪」

美月

「んふう……わたしも美星も……じゆるる……い
つれも飲みこむ準備はれきてましゆから……！
ん、ちゅぶぶっ！ じゅぶっ！ ん、んん！
お口に……！ 全部わたし達のおくひにら
ひてくらひやい……！ んじゆるるう……
……！ んぶっ！」

美星

「最後はもつろ激しくしてあげりゆから……ん、
お兄も思いつきりい……！ ん、じゅぶぶう……
……じゆるるるう……♪ ん、んん♪」

美月

「んん！ じゆるるるうっ！ じゅぶぶっ！
ん、んん！ じゆるるる！ んん！ お兄しゃ
ん……！ お兄しゃん！ んん……！」

美星

「お兄……！ んじゅぶぶっ！ んぶうっ！
じゆるじゆる……んん！ お兄……！ お兄い
……！！ んぶう……！！！ じゆるる！
じゆるるうう……！！ イっれ……！！
んん！ んぶう……じゆるる！ おちんちん
いっれ……！！！」

美月

「んぶんぶんぶんぶんぶんぶんぶん♪ んぶん
ぶんぶんぶんぶんぶん♪ んん！ じゅ
るる！ じゆるるる！ んじゆるる……
……！！ じゅりゅりゅりゅりゅ……
……！！！」

美星

「んぶんぶんぶんぶんぶんぶん♪ んぶん
ぶんぶんぶんぶんぶん♪ んん！ じゅ
るる！ じゆるるる！ んじゆるる……
……！！ じゅりゅりゅりゅりゅ……
……！！！」

美月

「んっ！？ んぶうう……！！！？
んぶう……！！ ん、んん……！ ん
ぶぶっ！ ん、んん……！！ ん、じゅ
る！ じゆるる……！ んぶう……！ じゅ
ぶぶっ！ じゆる……ん、じゅぶぶぶぶっ……
ん、んぶう……ん……」「く、く、く、く
……んぶう……じゆる、じゆるるう……ぶ
はあっ……！ はあ、はあ、はあ……はあ……
……♪♪」

美星

「んっ！？ んぶううううううう……！！？？
んぶううう……！！ ん、んん……！！ ん
ぶぶっ！ ん、んん……！！ ん、じゅ
る！ じゅるる……！！ んぶうう……！！ じゅ
ぶぶっ！ じゅる……ん、じゅぶぶぶっ……
ん、んぶう……ん……く、く、く、く、く
……んぶう……じゅる、じゅるるう……ぶ
はあっ！！ はあ、はあ、はあ……はあ……
……♪♪」

美月

「うっ！ けほっ！ けほっ！ けほっ……！！
ん、はあ、はあ……はあ……はあ、はあ……
……え、えへ……お兄さん……凄いです♪
ん、こんなにいっぱい出してくれて……ん、
えう……ん……く、く、く……ぶはあ……
……♪ はあ、はあ……♪」

美星

「う……ん……く、く、く……く、く……
く……ん、んうう……ぶはあ……！！ はあ、
はあ……お兄ってば……いくらなんでもこれは
出しすぎだって……」

美星

「ん、うえええ……んむう……く、く、く……
……はあ……全く……味も色も……ん、
く、く……今までで一番濃いかも……ん、
はあ、はあ……」

美月

「ふふ♪ それに匂いもおう……すううううう
う……はああうううう……♪ ああ……
♪ ん……えへへ♪ お兄さんの精子の香り……
……とつても久しぶりで……♪ ん、すううう
う……♪ はああうううう……♪ ん、
はあ……♪ 幸せです……♪」

美星

「ん、はあ、はあ……♪ ん、すううううう……
……はああうううう……♪ ん、まあ……あた
しもこの匂い……イカ臭くてキツイ匂いだけど
……ん、これもお兄の匂いだから……ん、すう
う……はあ……♪ 好き……お兄の匂い
……お兄のおちんちんの匂い……♪」

美月

「はあ、はあ……ん、はあ、はあ……ん、
はあ、はあ♪ はあ、はああうううう……♪
ん、はふうううう……♪ ん、んん……♪」

美星

「はあ、はあ……ん、はあ、はあ……ん、
はあ、はあ♪ はあ、はああうううう……♪
ん、はふうううう……♪ ん、んん……♪」

美月

「えへへ♪ お兄さん、お疲れ様でした♪ 沢山
お兄さんのミルク飲めて嬉しかったです♪」

美星

「チンカスも綺麗に舐めとれたし、精液も……ん
……れろ♪ れろれろ……ん……ちゅ♪
ちゅ……ちゅ♪ えへへ♪ これで綺麗になっ
たかな？ ん……ちゅ♪」

美月

「ふふ♪ 私達ならお風呂に入るよりも綺麗にしてあげられますから、もしおちんちんお掃除しなくなったらいつでも言ってくださいね？」

美星

「まああたし達、お兄の恋人だし……お兄のおちんちはあたしとお姉だけの物だし……して欲しくなったらいつでもしてあげる」

美星

「あ、でもその代わりあたし達以外の物で抜いたりしちゃダメだからね！ オナホールとかも許さないから！ いい？ 分かった？」

美月

「そうですよ、お兄さん？ 私達以外で無駄打ちなんて許さないんですから♪ きちんと約束してくださいね？」

美星

「もし約束破ったら今度はもうずっとお兄の事焦らして虐めてあげるから。覚悟してよね？」

美月

「でもそうになったら私達の方が我慢できなくなっちゃって大変かも……」

美星

「あ……確かに……む、むう……じゃ、じゃあ逆に！ もしお兄があたし達以外で射精したらお兄が泣いて謝るまでおちんちんシコシコし続けてあげるから！ 絶対約束破っちゃダメだから！」

美月

「はい♪ えへへ♪ 私達の我儘を聴いてくれて
ありがとうございます♪ お兄さん♪ 大好き
♪」

美星

「ん、あたしも……お兄……ありがとね？ ん、
好き……♪ お兄い……大好き♪」

	トラック05
美星	「ん、はあ、はあ……ねえ、お兄？ 一回射精しちゃった訳だけど、こんなんじゃ終わらないよね？」
美月	「そうです♪ まだ本番エッチしてもらってませんし、今日は一日中エッチして膣中に出してもらう約束ですから♪ はあ、ん、はあ……♪ お兄さん♪ もっともっと、私達の事、気持ちよくしてほしいです……♪」
美星	「じゃあお兄……さっきはお姉にチンカスフェラ譲ったんだし……今度はあたしからおまんこして？」
美星	「って、ふえ？ エッチする前におちんちんオネダリして欲しい……って……ちょ……お兄ったら何調子にのって……」
美月	「うーん、でもそうですよね……さっきは私達の方がお兄さんに意地悪しちゃいましたし……お兄さんが私達にオネダリして欲しいって望むなら……私は別に……そのう……凄く恥ずかしいですけど……いいですよ？ エッチなオネダリ……してあげます……♪」
美星	「お、お姉！？ う、ううう……でもおー……ん、んん……もう……！ お姉がするならあたしもするしかないじゃない……！」

美星

「ん、お、お兄……？　ほんと、一回だけね？
この距離でないとは思うけど……聞き逃したり
したら知らないからね？」

美月

「ふふ♪　お兄さるん♪　私と美星……トッパア
アイドルのエッチなオネダリ♪　いっぱい聞いて
ください♪」

美月

「お兄さん……♪　好きです……♪　大好きです
……♪」

美星

「ん、お兄い……好き……恥ずかしいけ
ど……めっちゃ恥ずかしいけど……お兄の事……
ほんとに好き……♪　大好き……♪」

美月

「私……毎日大好きなお兄さんの事を想って……
お部屋でひっそりオナニーしちゃったりもして
て……ん、はあ、はあ……お兄さん……私……
今もアイドル衣装の下……パンツの中……愛液
でびちょびちょになってるんです……♪」

美星

「あたしだって……お兄のおちんちん思い出して
毎晩一人エッチして寝不足だし……ん、はあ、
はあ……お兄の事思い出すだけでおまんこ濡れ
ちゃうし……胸は切なくなっちゃうし……もう
お兄がいない生活なんて想像できないくらいハ
マっちゃってて……」

美月

「ねえ、お兄さん？ こっち……私のパンツの中
触ってみてください……はい、そこです……そ
こ……お♪ 私の大切な場所……お兄さんと美
星にしか見せない……私の……赤ちゃんのお部
屋……♪」

美月

「ん、ああん♪ ふふ♪ はい、そうです♪ い
つもお兄さんが入って来てくれる所……ん、
はあ、はあ……♪ ああ♪ やつと……やつと
お兄さんに触ってもらえて……ん、ああん♪
ふふ♪ 全身が喜んじやって……お汁とぶとぶ
漏れちゃいますう……♪」

美星

「はあ、はあ……お兄い……あたしもお……ん、
あたしのこ……おまんこ、触って？ うん……
……パンツ捲っていいから……ん、はあ、はあ……
……♪ ひやうんっ♪」

美星

「はあ……はあ……♪ え、えへへ……♪ お
兄ってば……ん、はあ……はあ……♪ ん、あ
うう……♪ はあ、はあ……そんながつつい
ちやって……ん、う……ん、んん……♪
はあ、はあ……」

美星

「お兄だって……ん、あたし達のおまんこ……す
ぐ欲しがっちゃって……♪ ん、はあ……はあ
……♪ ん、はあ……え、えへへ♪ お兄……
♪ ん……もつと……♪ もつとおまんこ触つ
て……？ ん、はあ、はあ……♪」

美月

「ん、はあ、はあ……♪ お兄さん……♪ んん
♪ お兄さん……もつとそこ……♪ ん、中を
コリコリって撫でて欲しいです……♪ んん♪
私の気持ちいいところ……♪ ん、ゴスポッ
トお……♪ ん、はあ♪ もつと指でクイク
イって撫でてください……♪」

美星

「ん、はあ、はあ……♪ お兄……あ♪ だ、ダ
メ……♪ それ……あたしのクリい……♪
ん、んん♪ はあ、はあ……♪ 感じすぎて…
…♪ ん、あうう……♪ ん、はあ、ひゃんっ
……♪ ん、はあ、はあ……♪」

美星

「んもう……♪ ん、え、えへへ……♪ お兄の
指……いっぱいおまんこ擦ってくれて……♪
ん、嬉しい……♪ はあ、はあ……♪ お兄…
…♪ お兄い……♪ んん♪ もつとクリって
してえ♪ アイドルのクリトリスいっぱい弄ん
でえっ♪」

美星

「んあ♪ はあ、はあ……♪ んん♪ お兄い…
…好き……♪ んん♪ はあ、はあ……お兄
♪ お兄……お兄いっ……♪ 好き……♪ 好
き……♪」

美月

「お兄さぁん……♪ はぁ、はぁ……♪ お兄さん……♪ お兄さん、お兄さん……♪ はぁ、はぁ……♪ お兄さん、んん♪ 好き、ですう……♪ ん、はぁ、はぁ……♪ ん、はうう……♪」

美星

「お兄い……♪ んん♪ お兄好きい……♪ お兄い……♪ お兄いい……♪」

美月

「お兄さうん……♪ お兄さん……♪ お兄さん……♪ はぁ、はぁ……♪」

美星

「はぁ、はぁ……♪ お兄い……♪ 好き……♪」

美月

「お兄さん……♪ 好きです……♪ 大好きです……♪」

美星

「はぁ、はぁ♪ ん……お兄の指も気持ちいいけど……ん、あん♪ はぁ、はぁ……♪ でも、んん♪ やっぱり……指だけじゃ嫌あ……♪」

美月

「はぁ、はぁ……♪ お願いです……お兄さん……私も……ん、あん♪ はぁ、はぁ……指だけじゃ物足りないですう……♪ ん、お兄さんのを……私の中に……ん、入れてください……♪」

美星

「ん、はあ……だめえ……♪ ん、あたしに頂戴い……？ お姉より先に……ん、あたしのおまんこに……はあ、はあ……♪ お兄のおちんちん……入れて欲しい……♪ おまんことおちんちん……ちゅっちゅして欲しいの……」

美月

「んん♪ はあ、はあ……ん、あうう……お兄さあん……♪」

美星

「はあ、はあ……お兄い……ん……はああ……♪ お兄い……お兄い……♪」

美星

「ん、ふえ？ お、お兄？ って、やつ！ きやつ！ ひゃん！？」

美星

「お、お兄？ 急にどうしたの……って、はぷっ！？ ん、んん！… ん、ちゅぷっ……ん、ちゅ……はぷっ……ん、れろれろ……ん、んん……！ ん、ちゅ……れろ……んん♪ ちゅ♪ れろ……ん、ちゅ♪」

美星

「ん、んん……んっ！ ぷはあっ！ はあ、はあ……お、お兄？ いきなり……ん、はぷう！？ んん！？ ん！ じゅぷっ！ じゅるる♪ んん……！ んぷっ！ ちゅ♪ れろ……！ れろれろれろ……♪ んん♪ ちゅ、ちゅ♪」

美星

「んむう♪ お、お兄い……！ きしゅ激ひい……！
ん、ちゅぷっ！ ん……！ ちゅ♪
れる……れるる……♪ んふう……♪ ん、
ちゅ♪ ちゅぷっ♪ ん、れる……れるる……
ん、じゆるる♪ じゅりゅりゅりゅ……♪
♪」

美月

「ん、はあ、はあ……そっか……お兄さんは最初
に美星を選んだんですね……えへへ♪ は
い、私は大丈夫ですから……どうか美星の事……
……いっぱい気持ちよくしてあげてください♪」

美星

「ん、んむう……！ ん、じゆるる♪ ん……
……んちゅ♪ れろ、れるるるるる……♪
んぷっ♪ じゆるる♪ じゆるる……♪ んん♪
お兄い……♪ ん、じゆるる♪ じゅりゅりゅ
りゅ……♪」

美星

「んふう……♪ ちゅ♪ はぷっ♪ ん、
ちゅうう……♪ ちゅ♪ ん、ん……！
ん、ちゅ♪ はあ、はあ♪ お兄い……♪ 嬉
しい……♪ ん……ちゅ♪ れるるる……ん
……ちゅ♪ はぷっ♪ ん、ん……♪
じゆるじゆる……ちゅ、ちゅ♪」

美星

「はあ、はあ……♪ ん……えへへ♪ お兄い……
……♪ 好き……♪ ん……ちゅ♪ はぷっ♪
ん、ちゅ♪ れろ……れるる……ん……
ちゅ♪ ちゅ、ちゅ♪」

美星

「えへへ……♪ お兄……それじゃあ先にあたしと……久しぶりに本番セックス……しよ？」

美星

「勿論ゴムとかいらない……むしろ付けてエッチなんてしたら怒るから……ん、はあ、はあ……♪ あ……ん、うん♪ お兄のおちんちん、期待してるね♪ えへへ……♪」

	トラック06
美月	<p>「お兄さん……♪ 先に美星を可愛がって上げてください♪ 私はこのままお兄さんの耳元で人のセックスが終わるのを待ってますから♪」</p>
美月	<p>「はい♪ 私の事は気にせず、存分に楽しんじゃってください♪」</p>
美星	<p>「はあ、はあ……ん♪ はあ、はあ……♪ お、お兄い……♪ ん、おちんちん……凄い熱い……ん、あん♪ はあ、はあ……♪ ん、これ……おまんこに当たってる……♪」</p>
美星	<p>「ん、はあ、はあ……♪ 大丈夫……さっきお兄にいっぱい触ってもらったから……はあ、はあ……♪ おまんこ……愛液でぐちゅぐちゅで……ん、簡単に入ると思う……」</p>
美星	<p>「ん、あ♪ お兄のおちんちん……♪ やつと……♪ ん♪ やつとあたしの中に……♪ んん♪ はあ、はあ……♪ あ♪ お兄い……♪ んん♪ お兄い……♪ お兄いい……♪♪」</p>
美星	<p>「ん、あ♪ あ、あ……♪ お兄い……♪ 来てえ♪ あたしのおまんこの中に……♪ ん、あ♪ はあ、はあ……♪ お兄の事大好きなあたしの中に……♪ ああ♪ き、きてえ……♪♪」</p>

美星

「んあ♪ はあ、はあ……♪ うっ♪ うう……♪
ん、んんんん……！！んっ！
きゆうううううう……♪♪」

美星

「んはあゝ！ はあ、はあ、はあ、はあ……♪
ん、はあ、はあ……♪ お、お兄い……♪
はあ、はあ……♪ ああ♪ お兄のおちんちん
……ん、あ♪ お腹の中に入って……♪ ん、
ああ♪ はあ、はあ……♪ んん♪」

美星

「えへ♪ えへへ……♪ お兄……どう？ 久し
ぶりのおまんこは……♪ はあ、はあ……♪
気持ちよすぎて……んん♪ もうイっちゃいそ
う？」

美星

「あは♪ だって……♪ ん♪ 今も……♪ お
まんこに入れた途端……もう出ちやいそうなく
らい震えて……ん、あん♪ ほら……今も思
いっきりビクとした……♪」

美星

「うん……♪ そっか……♪ そんなに気持ちよ
くなってくれてるんだ……♪ ん、なら……♪
お兄を焦らした甲斐があったかも……だね♪
はあ、はあ……♪」

美星

「って……ん、はあ、はあ……♪ 焦らされてたのはあたしも同じか……♪ はあ、はあ……♪ え、えへへ……♪ もう、おまんこムズムズしすぎて……ん、あん♪ 簡単にイっちゃいそ……♪」

美星

「それに……おまんこの奥の方も……早くおちんちん欲しくてきゅんきゅん止まなくて……♪ ん、はあ……お兄の事……おまんこも大好きなみたい♪」

美星

「はあ、はあ……ねえ、お兄？ おちんちん……もっと奥まで欲しい……♪ もっと……赤ちゃんのお部屋まで……お兄の赤ちゃん作る場所まで思いつきり突いて欲しい……♪」

美星

「あたしの事大好きだって……お兄の大切な恋人なんだって……おちんちんであたしに伝えて欲しい……お兄に愛されてるんだっておちんちんで教え込んで欲しいの……♪」

美星

「だから……ね？ お兄い……♪ いっぱいおまんこシテ？ いっぱい……あたしのおまんこ壊れちゃうくらいいっぱい愛して？ ん、じゃないと……許さないんだからね♪ ん、はあ、はあ……♪」

美星

「つて、んひゃあっ!？ ん、あ♪ はあ、はあ
……♪ ん、あっ♪ やっ♪ ん、きやつ♪
はあ、はあ……♪ ん、はあ、あん♪ はあ…
…♪ ん、あ♪ お、お兄……ん、はあ、あん
♪ はあ、はあ……♪」

美星

「んあ♪ あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ…
…♪ ん、はあ、はふう……♪ お、お兄い…
…♪ ああ♪ そこ……すっごくイイ♪ ん、
ああ♪ ん、はあ、はあ……ん、ああん♪
はあ、はあ……♪」

美星

「あたしのおまんこ……ん、もう……どこが気持
ちよくなっちゃうか……ん、ああん♪ お兄に
バレてるう……♪ ん、ああ♪ あうっ♪
ん、あ♪ あ、あ、あ、ああ……♪」

美星

「んあ♪ はあ、はあ……♪ う、うん……♪
そこお……♪ 入口のそこお……♪ ん
ひゃあ!？ んお♪ お、おお……♪ ふう
……ふう……♪ そこイイのお……♪
ん、んふう……♪ おおお……♪ おおお…
…♪」

美星

「はあ、はあ……♪ お兄の力りが……ん、ああ
♪ そこお……♪ おまんこの上にい……♪
ん、はあ♪ あ♪ 引っかかって……ん、ん
ふう……♪ おまんこ捲れちゃうう……♪
ああ♪ お兄い……♪ 気持ちいい……♪
んん♪ もっとしてえ？ ん、あ♪ もっ
とお……♪」

美月

「はあ、はあ……♪ ん、ふふ♪ 美星ったら
すっかり蕩けた顔しちゃって……先にしてい
いって言ったのは私ですけど……ここまでラブ
ラブなエッチ見せつけられるとちよつと嫉妬し
ちゃいますね」

美月

「ふふ♪ お・に・い・さ・ん♪ ふう
うううう……♪ ふっ♪ ふっ
♪ ふうううう……♪」

美星

「んひゃあ！？ んお♪ お、おお……♪
お、お兄い……♪ ん、ふう……ふう……
♪ 急に何で……んお♪ お、おお……♪
やっ♪ ダメ……♪ そんなパンって腰振っ
ちゃ……んおお！？ おおお♪ んおお……
……♪」

美月

「ふふ♪ お兄さんはお耳が弱点なの知ってるん
ですから♪ このままお耳を舐めて、お兄さん
の事、思いつ切り感じさせてあげます♪」

美月

「ん……れ………♪ ちゅぶ♪ ん……
じゆるる♪ じゆりゆりゆりゆ………♪ ん
ちゅ♪ はぶっ♪ ん、ちゅ♪ れろ、れろれ
ろれろれろ………♪ んちゅ♪ じゆる♪
じゆるる………♪」

美星

「ん、あ♪ お兄い………♪ ん、あ♪ はあ、
はあ♪ ん、はあ………♪ お兄い………♪ んあ
♪ あ、あ、あ、ああ………♪ はあ、はあ………
♪ お兄ってば………♪ んん♪ お姉に耳舐め
られて………♪ えへへ………♪ 情けない顔………
ん、しちやつてる………♪」

美星

「ん、はあ、はあ………♪ そんな顔見せられると
………♪ んん♪ はあ、はあ………♪ 可愛すぎて
もっとサービスしちやいたくなるじゃん♪
ん、はあ、はあ………♪」

美星

「んあ♪ あ、あ、あ、ああ………♪ はあ、はあ
………♪ んん♪ お兄い………♪ こっち向い
てえ………？ そう♪ そのまま………♪ はぶっ♪
んちゅ♪ れろ♪ れろれろれろれろ♪ ん
………♪ ちゅ♪ れろ♪ ん………♪ ちゅ、
ちゅ♪」

美星

「はあ、はあ……♪ お兄い……♪ 好き……♪
大好き……♪ ん……ちゅ♪ はぶっ♪
ん、ちゅ♪ れろ、れろれろ……♪ ん、
はあ、はあ……♪ お兄い……♪ お兄い、お
兄い……♪ ん、じゅるる♪ じゅるる
るうう……♪」

美星

「ん、ぷはあ♪ はあ、はあ……♪ えへへ♪
好き♪ ん、ちゅ♪ ん、ふう、ふう……♪
ん♪ はあ、あ♪ んあ♪ あ、あ、あ、
ああ……♪ んあ♪ お兄い……♪ お兄の
おちんちん……大好き……♪」

美星

「ん、はあ、はあ……♪ え？ あっ♪ やっ！
お、お兄いっ！ また急にそんな……
ふえっ！ んあ♪ やっ！ ちよっ！ お
兄っ！？ 腰掴んで何をっ……」

美星

「って……んおっ！？ おぶっ！ んっ！
おおおっ！？ んぶう……！ やっ！ お兄！
そんな激しくおまんこ突いちややっ……！
んぶうっ……！？ んおっ！ お！ お
おおお……♪」

美星

「ん、んふう〜……………！ おおお……………♪ お、
お、お、お、お、お、お、お、お、お、お、
お、お、お、お、お、お……………♪ ん、お、お……………♪
やっ♪ ダメ……………♪ お兄い……………♪ ん
ぶう……………♪ お、お、お……………♪ んお♪ そ
れ以上は……………ん、んぶう……………♪ お、お、お
……………♪」

美星

「はあ、はあ……………♪ ん、んぶう……………♪ お、お
……………♪ やっ♪ お兄い……………♪ ん、ふう〜、
ふう……………♪ んあ♪ やっ♪ お、お……………♪
お、お、兄い……………♪ んお……………♪
ぎ、ぎもちよしゆぎておかしくなりゆよ……………
……………♪」

美星

「ん、お、お……………♪ お♪ お♪ お♪ お♪
お♪ お♪ お♪ お……………♪ んん♪
はあ、はあ……………♪ ん、ああ……………♪」

美月

「ふふ♪ お兄さん流石です♪ 美星にあんな下
品な声を上げさせるなんて♪ えへへ♪ 私も
美星のあんな声は初めて聴くので……………ん、
はあ、はあ……………♪ どうしましょう♪ 期待で
お股がきゅんきゅん切なくなっちゃいます♪」

美月

「ん、はあ、はあ……♪ お兄さん……♪ ん、
ちゅ♪ ん……ちゅ♪ ちゅ、ちゅ♪ えへ
へ♪ お兄さん……お兄さ……♪ ん……
……ちゅ♪ 好き……♪ ちゅ♪ れろ♪ れ
ろれろれろろ♪ ん……ちゅ♪ ちゅ、
ちゅ♪」

美月

「後で私にも美星と同じくらい激しいセックスし
てください♪ お願いします……♪ ん……
ちゅ♪ はぷっ♪ れろれろれろろ♪ ん
ちゅ♪ ちゅ、ちゅうう……♪ ちゅ♪」

美星

「ん、んお♪ お、おお……♪ お兄い……♪
んふう……♪ お兄……お願い……ん
ぶっ！？ んおっ！ おおお……♪ お願いだ
からあ……♪ もうちよつと手加減……ん
ぶうっ……！ おおお♪ ん、お♪ おおお……
……♪」

美星

「ふう……♪ ふう……♪ んふう……♪ んふう……
……♪ だ、だめえ……♪ こんな下品な声……
……♪ ん、ああ♪ お兄にも……お姉にも聞か
れたくないのに……♪ ん、おお……
♪ んお♪ お、お、おお……♪ 恥ずかし
すぎておかしくなりそ……ん、んおおお
おおお……♪」

美星

「んあ♪ やっ♪ お、お兄い……♪ はあ、
はあ……♪ こ、これ以上は……ん、もう、無
理い……♪ あ……ダメ……お♪ お、お、
おおお……♪ もう、おまんこ無理……耐えら
れな……んぶう……!? お♪ お、おおお…
…♪♪」

美星

「んあ♪ はあ、はあ……お、お兄いも……もう
イク? ん、はあ、はあ……♪ おちんちん…
…ぴゅっぴゅしちやいそう? ん、はあ、はあ
……♪ んお♪ お、おおお……♪」

美星

「え、えへへ……♪ そっか……♪ ん、なら一
緒に♪ 一緒にイこ? はあ、はあ……うん♪
お兄と一緒に……一緒にイク……♪ んあ♪
あ♪ お、おおお……♪ んぶう♪ んお♪
お、お、お、おおお……♪」

美星

「はあ、はあ……♪ んあ♪ お、お兄い♪ お
兄お兄お兄お兄い……♪ んん♪
ああああ♪ んあ♪ あ、あ、あ、あ、あ、
あ、あ、ああ♪ ん、やああ……♪ お
兄い……! お兄お兄お兄お兄い………
……!」

美星

「ん、えへへ♪ お兄い……♪ ん……ちゅ♪
はぶっ♪ ん、ちゅ♪ れろ♪ れろれろ……♪
……♪ ん……お兄い……♪ ありがと……♪
ん……ちゅ♪ はぶっ♪ ちゅ♪ れろれろ
……ん……ちゅ♪ ちゅ、ちゅ♪」

美星

「あたし……いっぱいお兄に愛されてるんだって
……はつきりわかって……ん、はあ、はあ……
♪ ほんと……何だろこれ……♪ 幸せすぎて
もう頭おかしくなっちゃう……♪ ん、はあ、
はあ……♪ はふう……♪」

美星

「えへへ♪ お兄い……♪ すき♪ えへ♪
大好き……♪ ん……ちゅ♪ ちゅ、ちゅ……
……♪ はぶっ♪ ん……ちゅ♪ れろれろ……
♪ ん……ちゅ♪ ちゅ、ちゅ♪ えへへ♪
お兄い♪ お兄い……♪ ん、はあ、はあ
……はあ……♪」

美月

「えへへ♪ 美星ったら本当に幸せそうで羨ましい♪
でも……ん……ちゅ♪ お兄さん？ 美星が可愛いのは分かりますけど、私の
事、忘れちゃダメですよ？」

美月

「はい♪ 美星とのセックス見てたら、私も期待
して、お股が濡れちゃいました……♪ えへへ
♪ はしたないですけど、もう我慢できないで
す♪」

美星

「ん、ぷはぁ♪ はぁ、はぁ……ん、お兄い……
あたしはもう大丈夫。お兄にいっぱい愛して
貰ったから……ね？ 次はお姉の事、いっぱい
愛してあげて？」

美月

「あ、お兄さん……ん、きやつ♪ ん、はぁ、
はぁ……♪ え、えへへ♪ はい、次は私で
いっぱい気持ちよくなってくださいね♪ ん、
……ちゅ♪」

	トラック07
美月	<p>「はあ、はあ……♪ ん、えへへ♪ お兄さん……どうか、本番の前に少しかキスしてくれませんか？ お兄さんの唇で……私の緊張を解して欲しいんです……♪」</p>
美月	<p>「はあ、ん、はあ……♪ あ……お兄さん……♪ ん……ちゅ♪ はぶっ♪ ちゅ……んちゅ♪ れろ……れろれろ……♪ ちゅぶっ♪ ん……ちゅ♪」</p>
美月	<p>「ん、ぶはあ♪ はあ、はあ……♪ えへへ♪ お兄さんの唇……やっぱり私、大好きです♪ こうやって……ん……ちゅ♪ キスするだけで、胸の中がぼわってなって、あったかくなって……とっても安心します♪」</p>
美月	<p>「ん、お兄さん……♪ ちゅ♪ れろれろ……ん……ちゅ♪ はい、どうかこのまま……ちゅ♪ キスしながら入れてください♪ 私のお腹の中に……子宮の奥まで来てください♪」</p>
美月	<p>「はぶっ♪ ん……ちゅ♪ れろれろ……ん、ん♪♪ あ♪ き、来ます♪ ん、お兄さん……♪ ん……♪ はぶっ♪ ぶちゅ♪ れろ……れろれろ……♪ ん、んんん……♪」</p>
美月	<p>「ん、つきゅうううううう……♪♪」</p>

美月

「ん、ぷはあ♪ はあ、はあ、はあ、はあ……♪
え、えへへ……♪ お兄さん……♪ ん、
はあ、はあ……♪ 入り、ましたあ……♪
ん、はあ、はあ……♪」

美月

「んあ♪ はあ、はあ……♪ あうう……♪ 凄
い……♪ お兄さんの、さつき美星に出し
たばかりなのに……ん、はあ、はあ……♪ も
うこんなに力チ力チになって……♪ えへへ♪
お腹をミチミチ……って押し開いてくるの、分
かりますう……♪ 分かっちゃいますう……
♪」

美月

「んへ♪ えへへ♪ はい、いいですよ？ 好き
なだけ、ん、あん♪ 私の中……パンパン突い
てください♪ だって、私の全部はお兄さんの
物なんですから♪ お兄さんの形……一生忘れ
られないくらい覚え込ませてください♪」

美月

「んあ♪ あ、あ、あ、ああ……♪ んあ♪
き、来ましたあ……♪ ん、やつ♪ はあ、
はあ♪ んあ、あ♪ あ、ああ……♪ お兄さ
ん♪ ん、はっ、はっ♪ えへへ……♪ 好
き♪ お兄さんの……ん、はっ♪ お腹の中
で響きますう♪」

美月

「はあ、はあ……♪ ん、あ♪ お兄さ〜ん♪
好きい♪ ん、はっ♪ はあ、はあ……♪ ん
ん♪ あ、あ♪ お兄さん……♪ お兄さん♪
お兄さん♪ お兄さん♪ ん、はあ、はあ…
…ん〜……ちゅ♪ ちゅ、ちゅ♪」

美星

「お兄〜？ もしかしてだけどさ、あたしの事
忘れてない？ んもう……お姉に悪いかなって
思って黙ってたけど、そろそろあたしの事も思
い出してよね……はむっ！ ん〜……ちゅ♪
れろっ、れろれろ……んちゅ、ちゅ♪」

美月

「ん……ちゅ、ちゅ……ぷはあ♪ はあ、はあ♪
え、えへへ♪ お兄さんったら、美星にお耳
舐めて貰えて嬉しそう♪ ん〜……ちゅ♪
ちゅ、ちゅ♪」

美月

「はあ、はあ……♪ ん……私も……もっと気持
ちよくなつて貰えるように……ん、んん♪ え
い、えいえい♪ んん♪ はあ、はあ……♪
頑張りますから♪ んん〜……♪ お兄さん…
…ぷちゅ♪ はぷっ♪ ちゅ、ちゅ♪」

美月

「ん、こうやってえ〜……♪ お腹に力を入れて
……♪ んん♪ きゅっきゅ♪ きゅっ
きゅうう〜……♪ ん、はあ、はあ……♪
お兄さん……どうですか？ これ、気持ちい
いですか？」

美月

「はあ、はあ……♪ はい♪ ん、同じく彼氏持ちのアイドル仲間に……ん、ちょこっとアドバイスをもらって練習したんです♪ ん♪ はあ、はあ……♪」

美月

「いつまでもお兄さんにされてばかりじゃ……ん、ああん♪ はあ、はあ……いつか飽きられちゃうかなって思って……♪ えへ♪ えへへ♪ 気に入ってくれたみたいで嬉しいです♪」

美月

「はあ、はあ……♪ ん、なら……もっと沢山してあげますね♪ ん、しょ……っと♪ はい♪ もう一度お……♪ きゅつきゅきゅつきゅうう……♪ ヒダヒダを力りに吸い付かせるみたいにい……♪ きゅつきゅ……♪ きゅつきゅうう……♪」

美月

「ん♪ あ♪ ひゃん♪ んあ♪ はあ、ふふ♪ お兄さん……ん♪ はあ、はあ……♪ ダメですよ……♪ そんないきなり……パンって腰振っちゃ……ん、あん♪ ビックリしちゃいます♪」

美月

「ん、はあ、はあ……♪ でも、ん♪ 理性を無くしちゃうくらい気持ちよくなってくれるの……ん、はあ、はあ♪ 嬉しい♪ ん……んん♪ はあ、はあ……♪ えい♪ えいえい♪ きゅつきゅ……♪ きゅつきゅうう……♪」

美月

「お兄さん……♪ ん、好きです♪ 大好きです♪ はあ、はあ……♪ ん……ちゅ♪ んちゅ♪ じゅぷづつ♪ んん♪ しゅきい……♪ んん♪ しゅきれすう……♪ ん……ちゅ♪ れろ♪ れろれろ……♪」

美月

「ん、んん♪ ぷはあ♪ はあ、はあ♪ 私と美星がここまでこれたのも……♪ アイドルとして輝いてこれたのも……ん、はあ、はあ♪ 全部全部お兄さんのおかげです♪」

美月

「お兄さんがいなきや絶対ここまで来れてません♪ はあ、はあ……ん、はい♪ そうです♪ 絶対そうなんです♪」

美月

「だから……ん、ああん♪ 私達は、お兄さんには感謝してもしきれないくらい恩があって……返し切れないくらい恩があって……♪ はあ、はあ……♪ だから、私の全部……私達の全部を……お兄さんに上げます♪」

美月

「アイドルの私達も、女の子の私達も……全部ぜんぶお兄さんだけの物です……♪ ん、はあ、はあ……♪ ん、お兄さんの好きにしているんですう……♪♪」

美月

「つて、え、えへへ……♪ ん♪ はあ、はあ……♪ こんな事言っちゃ、ファンの皆に申し訳ないんですけど……♪ ん、はあ、はあ……♪ でも♪ お兄さんは私達の一番ですので♪ これだけは譲れませんので♪」

美月

「はあ、はあ……ん、はい♪ いいんです♪ ん、はあ、はあ♪ これからも毎日……ん、あっ♪ ん、んん……♪ お兄さんのしたいときにしたいようにしてくれていいんです……♪」

美月

「それくらい……んん♪ 私達、お兄さんの事大好きですから♪ んあ♪ あ、あ、あ……♪ ん、ああ♪ お兄さん……♪ 好きです♪ 大好きです♪ んん♪ はあ、はあ♪ お兄さん♪ お兄さん……♪♪」

美星

「ん、お兄……あたしも……お姉に全部言われちゃったけど……大体同じ想いだから……ん、ちゅ♪ はぷっ……れろれろ……ん、んん？ 何って……その……だから……お兄の事……好きだって……事……♪」

美星

「あたしもね？ お兄がいなきゃ今の自分が無いつて分かってるし……絶対こんなに輝けてなかっただろうなって分かってるから……多分お兄が思ってる以上にあたし、お兄に感謝してるから……♪」

美星

「それこそ、あたしの全部……あたしの将来ぜんぶお兄にあげたいって思うくらいには、お兄の事好き……大好きだから……♪」

美星

「って、ひゃああ……ヤバ……何か雰囲気流されてすっごい告白しちゃってない？ あたし……」

美星

「はあ、はあ……ん、でも……ん……ちゅ……はぶっ……ん、ちゅ……れろ、れろれろ……こういう機会じゃなきゃ言えないし……ん、ちゅれろれろ……ん、お兄い……♪ん、ちゅ……好き……大好き……♪」

美月

「んあ♪ はあ、はあ……♪ん、んん♪ え、えへへ……♪ お兄さん……♪ん……ちゅれろ♪ れろれろ……ん……ちゅ♪ ちゅぶ♪んん♪ ちゅ♪ はぶっ♪ んん……♪」

美月

「はあ……ん、もっとお……♪ 上でも下でも……お兄さんの一つになりたいですう……♪ん……ちゅ♪ れろ♪ れろれろれろ……♪んふう……♪ ちゅ♪ はぶっ♪ ちゅ♪ ちゅ♪ ちゅ♪ ちゅ♪」

美月

「ですから……♪ んん……♪ ちゅ♪ もっと激しいキス……いっぱいしちゃいます♪」

美月

「はぶっ♪ ん〜……♪ じゆるる♪ んちゅ♪
れ〜ろれろれろれろ♪ んぶっ♪ じゅ
るる♪ じゆるる♪ ん〜……ちゅ♪ れろ♪
れろれろれろ〜……♪ んちゅ♪ じゆる
♪ じゆるるるるう〜……♪」

美月

「ん、んん♪ れろれろ♪ ん、ちゅ♪ はぶっ
♪ ちゅぶっ♪ ん、んん〜……♪ じゆるる
るう〜……♪ ぶはあ♪ はあ、ん、あ、あ
ん♪ やっ♪ あ、お、お兄さん……♪ ん、
んん〜……♪」

美月

「はあ、はあ……♪ やっ♪ そこ♪ んん♪
また奥まで届いて……♪ ん、はあ、はあ……
♪ えへへ♪ 凄いです……♪ 嬉しいですう
〜……♪♪」

美月

「お兄さん……お兄さん……♪ んん〜……ちゅ
ぶっ♪ ぶちゅ……♪ ん♪ れろれろれろれ
ろれろれろれろろ♪ ん〜……じゆるる♪
んふう〜……♪ もっろお〜……♪ んちゅ♪
じゆるる♪ じゆるるる♪ じゆるるるう〜
〜……♪♪」

美月

「んぷっ♪ れろれろ♪ んゝ……ちゅ♪
ちゅ、ちゅ♪ はぷっ♪ んゝ……ちゅ♪
はあ、はあ……♪ お兄さん……ん、あ♪
やっ♪ はあ、はあ……♪ んん♪ え、えへ
へ……♪ お兄さんの顔、蕩けて……んゝ……
ちゅ♪ ちゅ、ちゅ♪」

美月

「私のご奉仕で感じてくれて……はあ、はあ……
すっごく嬉しい……♪ ん、はぷっ♪ ちゅ、
ちゅ♪ んゝ……ちゅ♪ はあ、はあ……えへ
へ♪ お兄さん、可愛いです♪」

美月

「んん♪ じゆるる♪ じゆるるうゝ……♪
んんゝ……ぷはあ♪ はあ、はあ……♪ あ
……お、お兄さん？ って、ひやううう……
……っっ！……？？」

美月

「んひいっ！ やっ！ お、お兄さん！？
ひやっ！ やっ！ んあっ！ だ、ダメっ！
そんんあ強くしちや……やっ！ ひやう
っ！？」

美月

「んあ♪ やっ！ んお♪ うっ……！ おっ！
おおお……っっ！……ん、お♪ おおお……
♪ そんな深く突いちゃ……！ んお……♪
こ、声……おかしくなりますうゝ……♪♪」

美月

「んお♪ お、お、お、お、お、お、お、おう……っ♪♪ ん、んふう……♪ ふう……ふう……♪ んおお……♪ やっ……お、お兄さん……やめてくだひゃ……んふう………っっ♪♪」

美月

「おおお……♪ んお♪ お、おお……♪ そ、そんなにや……んふう……♪ やっ♪ あっ……♪ んあ♪ ん、んふう……♪ ら、らめ……♪ やっ……らめれすう……♪ げ、下品な声……やっ……恥ずかしい……んひい……っ……？」

美月

「んお♪ お、お、お、お、おお……♪ ぶふっ……♪ お、おお……♪ しょんな……美星もいりゆのに……♪ んふっ！？ うっ……お、おお……♪ んふう……♪ お、お兄ひゃん……♪ やっ♪ んお♪ お、お、お、おお……♪」

美星

「ん、はあ、はあ……お兄ってば、お姉にも容赦なくおちんちん突き刺しちゃって……うわあ……お姉、アイドルが絶対出しちゃイケナイ下品な声出てる……こんな声初めて聴いたかも……」

美星

「ん、でもさっきまであたしもあんな風に馬鹿みたいに喘いでたんだよね……うわあ……何かそれ思い出すとめっちゃ恥ずかしい……」

美星

「はあ、はあ……♪ ん、ちゅ♪ れろれろ……
んん……でもお姉も気持ちよさそうだし……
ん、ちゅ♪ お兄……もつとお姉にもシてあげ
て？ お姉の事……いっぱい気持ちよくイかせ
てあげて？」

美月

「あっ♪ やっ♪ み、美星……！ ん、んぐう
……♪ やっ♪ そんな、お兄さんを焚きつ
けるような事言っちゃ……ひゃわあっ！？
んおっ！ お、お、おお……！ やあ、お、
お兄さん……！ うっ！ やっ♪ んあ♪
あ、あ、あ、あ……♪」

美月

「はあ、はあ……♪ お、お兄さん……ダメで
す！ それ以上は私……どこかトんでいっちゃ
います……！ おかしくなっちゃいますう……
……！」

美月

「んあっ！ はあ、はあ……！ やっ！ んひや
あああっ！？ んあ♪ あ、あ、あ、あ、あ、
あ、あ、あああ……♪ ダメ……！ ダメ
ダメダメダメ……！！ ん、んん……！！
やっ！ そこ……！ 赤ちゃんのお部屋っ！
やっ！ ダメですっ！ やっ！ やあ……
……！」

美月

「んお！？ んお♪ お、お、お、おおお……♪
ほんどに……♪ ん、んぶう……♪ ほん
どにお、おかしくなりまひゆう……♪♪
んお♪ お、お、お、おおお……♪ んお♪
お、おおお……♪ お、お兄しやん
……♪♪ ん、んぶう……♪」

美月

「はっ、はっ……♪ やっ♪ ほじくつちやダメ
ですう……♪ やあ……♪ 奥ほじつちや……
……♪ んおおお……♪ うぶつ……はあ、
はあ……♪ やっ……♪ もう……♪ ん、ん
ん……♪ はあ、はあ……♪ あっ♪ やっ
♪ んあ♪ あ、あ、あ、あ……♪」

美月

「ん、んおお……♪ お、お、お、お、お、
お、お、おおお……♪ ん、んぶう……
♪ お、お兄さん……♪ お兄さんお兄さんお
兄さんお兄さん……♪ はっ、はあ、
はあ……♪ ん、んぶう……♪ お、
おおお……♪」

美星

「えへへ♪ ねえお兄？ おちんちん、もうイキ
そうなんでしょ？ あたしの方が先におまんこ
シてもらったんだから、お兄の顔見れば大体分
かるって♪」

美星

「ん、はあ、はあ……♪ お兄い……♪ ん、ちゅ♪ いいよ？ お姉にいっぱい出しちゃお？ ん、はぶ……ちゅ♪ れろ、れろれろ……♪ ん、お兄のエッチなミルクでお姉のおまんこ、いっぱいにしてあげて？ 気持ちよく満たしてあげて？」

美月

「ん、あ♪ やっ♪ お、お兄さん……♪ また
お腹の中でおつきくなつて……！ ん、んん！
ひゃわっ！？ やっ！ あ！ ペースもまた
早く……！ うっ、くううう……！！??」

美月

「やつ！ あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、あ、ああゝ
……！！ んあつ！ やつ！ そんなに早くさ
れちや……………！ やつ！ ダメっ！ ん、っ
くうぅ……………！！ やつ！ はあ、はあ…
…！！ ダメっ！ 来ちゃう！ 凄いの来ちゃい
ますぅ……………！！」

美月

「ん、んお♪ お、おおお……♪ さつきから
細かいのキてるのに……♪ ん、んふう……
……♪ んお♪ お、おおお……♪ しゅご
いのきます……♪ やつ、やあ……♪ ん、ん
んふう……♪ しゅごいの来ちやいますう
……♪」

美月

「んああ……!! やっ♪ お、おおう……
…♪ ん、んぶう……♪ も、もう……♪
んああ……♪ んあ♪ あ、ああ……
…♪ も、もう無理ですう……♪
ん、ああ……!! あ、ああ……
……!!」

美月

「イ、イキますう……♪ お兄さん……♪
ん……!! もういつひやいますう……
…!! ん、ああ……!! やっ!
あ、あ、あ、ああ……!!」

美月

「はあ、はあ……! んん! い、イぐう……
…!! うっ! あ、っ! イクっ! イクイ
クイクイクイクイクううう……
…!! んんんんっ!!?? イっ
きゅううううううううううううう
ううう……!!!!」

美月

「ん、んんんんん……
…!!?? んっ……! ひやううう……
…♪ ん、あっ♪ やっ……♪
ん、ん……♪」

美月

「んひゃっ! はあ、はあ……♪ ん、やあ……
♪ んん♪ お兄、さん……♪ ん、ん……
♪ やあ……♪ き、聴かないください……
…♪ ん、ん……♪ やっ♪ はあ、はあ
…♪ ん、ダメ……ダメダメえ……♪」

美月

「ん、はあ、はあ……♪ やあ……お漏らし……
んん♪ 気持ちよすぎて……んん♪ お漏らし
止まらないですう……♪ ん、はあ、はあ……
…♪ あ、ん、ああ……♪ お兄さん……お兄
さん……♪♪」

美月

「ん、はあ、はあ……♪ ん、はふう……♪
ん、あ……♪ お兄さんも……いっぱいお腹の
中に出してくれて……♪ ん……はあ、はあ……
…♪ やあ……♪ 嬉しい……ですう……♪
ん、お兄さん……ん、んん♪」

美月

「はいい……♪ お兄さんの精液……全部受け
止めますからあ……♪ んん……全部出して
ください……♪ ん、はあ、はあ……♪
もっとお……♪ もっと私の中にい……♪
んん♪ らしてくだひやいい……♪」

美月

「ん、はあ、はあ……♪ ん、んふう……♪
えへへ……♪ お兄さん……♪ ん、んん……
…♪ はあ、はあ……♪ お兄さん……♪ お
兄さん……♪ ん、んん……♪」

美月

「はあ、はあ……♪ ん、はあ、はあ……♪ は
い♪ またこうやって……♪ きゅっきゅ♪
きゅっきゅ……♪ はい♪ お兄さんの大
切な精液は絶対逃がしません……♪」

美月

「ん、はあ、はあ……♪ えい♪ えい、えい♪
きゅつきゅ♪ きゅつきゅ……♪
ん♪ えい、えいえい♪ ん、はあ、はあ
……♪ きゃっ♪ またぴゅぴゅって出まし
たねっ♪」

美月

「えへへ♪ もうお腹がお兄さんのミルクでいっ
ぱいで……♪ ん、ちよっとポコって膨らん
じゃってます……♪ ん、ん♪ はあ、はあ
……♪ お兄さん……嬉しいです♪ 大好きで
す……♪」

美月

「ん……ちゅ♪ ちゅ、ちゅ……♪ ん……
お兄さん……お兄さん……♪ 好き……好きで
す……好きです……♪ ん、はあ、はあ……はい、
愛してます……♪ ちゅ♪ ちゅ……♪」

美星

「んもう……お姉？ そろそろいいでしょ？ い
つまでもお兄を独り占めしちゃ駄目なんだから
ね？」

美月

「あっ、やあん♪ んもう……せっかくお兄さん
とラブラブしてたのに……♪ ん、はあ、
はあ……ん、はふう……♪」

美星

「いくらお姉でも駄目なものは駄目なんだから。
ん、ほらお兄も！ お姉のおまんこに浸ってな
いで、次は私に入れて？」

美星

「ふえ？ あ、いやだって、そのう……お兄とお姉のエッチ見てたら、あたしのおまんこまたぐちゅぐちゅになっちゃって……それにせつかくお兄に注いでもらったおちんぽミルクも溢れちゃったし……んん……！ あ、や、駄目……また漏れちゃう……ん、んん……！」

美月

「ふふ♪ そうですね♪ 私も……ん、今は収まってますけど、お兄さんと美星のエッチな姿を見たらまたすぐ興奮しちゃうと思いますのし……♪」

美月

「えへへ♪ お兄さん？ 美星とエッチした後は私ともしてくださいね？」

美星

「あ、勿論、あち二回で終わりとかじゃないから。あたしとエッチして、お姉ともエッチして……その後はまたあたしとだからね？」

美月

「ふふ♪ お兄さん？ このお部屋は二日予約してありますから安心してセックスし続けてくれて大丈夫ですよ？」

美星

「だから……お兄い？」

美月

「お兄さん……♪」

美星

「頑張ってエッチしてよね♪」

美月

「頑張ってエッチしてくださいね♪」

	トラック08
美月	「えへへ♪ お兄さん♪ にやんにや♪ ♪ にや♪♪♪ 子猫アイドルの美月にや♪ ♪ にや♪んにやん♪♪」
美星	「お、お兄い……ん、にや……にやあ♪♪♪ ……♪ 子猫アイドルの美星……んにやあ♪ ♪♪♪……♪」
美星	「って、お、お姉……やっぱいくらなんでもこれ ……ネコミミ付けてこんなの、恥ずかしすぎる んだけど……」
美月	「美星？ せっかくお兄さんに喜んでもらうため に用意したのに、今更そんな事言ってもダメだ よ？」
美月	「それにどうせさっきまで散々エッチしてたんだ し今更じゃない？ こういうコスプレは恥を捨て ないと楽しめないよ？」
美月	「ほら、美星もコスプレ楽しも？ その方がきつ とお兄さんも喜んでくれるから♪ そうですよ ね？ って、間違えた……お兄さんもそう思い ますにや？」

美月

「にやゝゝ゠んにやゝゝ゠゠゠゠にやあにやあゝゝ
ゝ゠ にやふうゝ……゠ お兄しやゝん゠
にやにやゝ゠゠゠゠にや゠゠゠゠にやあゝゝ゠
にやあゝゝ゠゠゠゠゠゠゠゠」

美星

「ん、んん……お兄も、やっぱりその……こういうさ、ネコミミキャラって好きなの？ そのう……お姉みたいな可愛い子なら似合うんだろうけど……あたしみたいなのが付けても、キャラ違うし変じゃない？」

美星

「ふえっ!？ はっ!？ あ、えっ!？ や、そ
んな……嘘でしょ……？ あたしなんか似合
う訳……は……え、えええ……?？」

美月

「ふふ♪ んもう……美星ってば偶に卑屈になるの悪い癖だよ？ 大丈夫♪ 美星から見て私が似合ってるって事は、双子の美星だって似合ってるに決まってるんだから♪」

美月

「それに、ネコミミを付けたからってお兄さんが
美星の事嫌いになるわけない……そうですよ
ね？ お兄さん♪ えへへ♪ にゃるる♪
にゃるる♪ にゃ、にゃるる……♪♪」

美星

「そ、そっか……ん、お兄……本当に……あたし
……その……これ、ネコ……似合ってるん
だよね？」

美星

「ん、なら……お兄？ ん……………にや……………」
にやああ……………」

美星

「ん、にやああ……………お兄い……………」
ん、にや、にやああ……………」

美月

「うんうん……………やっぱり美星可愛いよ 自信
もって大丈夫……………」

美星

「え、えへ……………そっか……………うん、何か
自信出てきたかも……………ん、じゃあお兄？
ん、ん……………にや、にや……………
にや……………お兄……………にや……………
♪ あたしの事……………子猫な美星を可愛がって欲
しいにや……………にや……………」

美月

「お兄さん……………私の事も忘れずに……………ん、にやあ
……………お兄さん……………にや……………
にや、にや……………ふにや……………
……………いっぱい可愛がってくださいにや……………
……………にやにやにや……………」

美星

「ん、にや……………ん、あ……………お兄のナ
デナデ……………すっこいい……………んにや……………
……………にや……………お兄……………
ん……………もつと触ってえ……………ん、
にや、にや……………んにや……………
……………」

美月

「にゃあ〜〜♪ お兄さん……♪ えへへ♪
今日は私達がお兄さんの猫ちゃんになつてあげ
ますから……ん、にゃうう〜……♪ 存分に可
愛がつてくださいにゃ〜♪ にゃ♪ ん〜にゃ
♪ にゃにゃにゃ〜〜〜♪」

美星

「ん、はあ、はあ……♪ ん、にゃあ〜……♪
お兄い……♪ んん♪ 顎下も撫でて？ ん、
にゃう……♪ にゃにゃにゃ〜……♪ ん、
にゃあ〜……♪ にゃ、にゃあ〜〜♪ ん
ん……♪ にゃああ〜〜〜……♪」

美月

「えへへ〜♪ お・に・い・さ・ん〜……♪」

美星

「ん〜……♪ にゃ〜……♪ お・に・い〜〜
……♪」

美星

「すうう〜〜〜……ふううう〜〜〜
〜……♪ ふう〜〜〜♪ ふう〜〜〜
♪ すうう〜〜……ふうううう〜〜
〜……♪」

美月

「すうう〜〜〜……ふううう〜〜〜
〜……♪ ふう〜〜〜♪ ふう〜〜〜
♪ すうう〜〜……ふうううう〜〜
〜……♪」

美月

「にゃ〜、ん〜ちゅ♪ えへへ〜♪ お兄しゃん
だけの子猫なアイドル、美月ですにゃ〜〜♪
んにゃ〜〜♪ にゃ〜、にゃ〜〜……♪」

美星

「んにゃあ〜……お姉ノリノリすぎい……んん……
……にやうう〜……♪ あたしもお〜……にや〜
♪ お兄い〜♪ お兄だけの子猫アイドル……
美星にや〜……ん、にやにや〜……♪」

美月

「えへへ〜♪ お兄しゃ〜ん♪ ん〜ちゅ♪
はぷう♪ ん、にや〜♪ お兄しゃんの事大好き
きな子猫の美月は〜♪ んにや〜♪ 大好き
なお兄しゃんの事お♪ いっぱいぺろぺろし
ちやいますにや〜♪」

美星

「んにや〜……♪ お兄い〜……♪ ん〜ちゅ♪
あたしも〜……♪ にやにや〜……♪ 大好き
なお兄のお耳、いっぱいぺろぺろして気持ちよ
くしてあげるにや〜……」

美星

「じゃあ〜……♪ 美星？」

美月

「うん、お姉……」

美星

「ん〜……にやあ〜……♪ んむう〜
……♪」

美月

「ん〜……にやあ〜……♪ んむう〜
……♪」

美月

「んふ♪ お兄しゃ〜ん♪ ん、にやあ〜……♪
子猫アイドルの舌はどうですかにや〜？ ん
にや〜♪ れろれろ♪ ん〜ちゅ♪ ちゅ、
ちゅ♪」

美星

「ん、にやあゝ……んぷっ♪ ん、じゆるじゆる
じゆるじゆる……♪ んゝ……ちゅ♪ はぷっ
♪ れろれろ……んゝ……♪ れろ♪ れろれ
ろれろれろおゝゝ♪ ん、じゆる♪ じゆる
るうゝゝ……♪ ん、んん♪ にやふっ♪」

美星

「ん、れろれろ……全くう……ん、ちゅ♪ アイ
ドルにこんな、コスプレご奉仕させるなんて……
……ん、お兄はほんと変態にやゝ……ん、ちゅ♪
れろ、れろれろれろれろ……♪」

美月

「んふふ♪ でゝもゝ……♪ 美星もすっかりノ
リノリみたいで……んゝ、ちゅ♪ はぷっ♪
んん♪ れろれろ♪ ふふ♪ 私は嬉しいけど
なゝ……♪ んゝ……ちゅ♪ れろ♪ れろれ
ろれろれろ♪」

美月

「お兄しゃんもゝ……♪ んゝ……ちゅ♪ えへ
へ♪ 美星ににやんにやんして貰えて嬉しいで
すよねゝ？ んゝちゅ♪ にや、にやあゝゝ
♪」

美星

「ん、はあ、はあ……そんな、見え透いたお世辞
言われても……ん、ちゅ♪ れろれろ……別に
嬉しくない……んにや……♪ にやふっ……
にやへへへゝ……♪♪」

美星

「んぷっ♪ ま、まあ……？ お世辞でも喜んでくれるなら……ん、ちゅ♪ はぶっ……ん、れろ♪ れろれろ……いっぱいペロペロ」奉仕してあげるわよ……ん、じゃなくって……ん……ちゅ♪ 「奉仕してあげるにや……♪」

美月

「ん……ちゅぷっ♪ んゝ、ちゅ♪ はぶっ♪ ん、ちゅ♪ れろ……れろれろ……♪ ん……ちゅ♪ ちゅ、ちゅ♪ はあ、はあ……♪ えへへ……♪ お兄しゃん……♪ んん♪ もっと頭撫でてにやゝ♪」

美星

「んん♪ お兄い……あたしも忘れちゃダメにや？ ん、にやあゝ……んゝ……ちゅ♪ れろれろ……♪ んゝ……ちゅ♪ ちゅ、ちゅ♪」

美月

「はあ、はあ……♪ お兄しゃん♪ んん♪ ちゅ♪ れろれろ……♪ えへへ♪ こうやって、アイドルとしてでなく、お兄しゃんの恋人としてでなく……ただの、お兄しゃんが大、大、だゝい好きな一匹のメス猫として愛を囁くの……何だか新鮮で……とっても楽しいです♪」

美月

「ん、はあ、はあ……♪ お兄しゃん……♪ 好きにやん♪ 大好きにやん♪ ん、にや♪ にやあゝゝ♪」

美星

「ん、ほんと……お兄ってば……アイドルにこんな事……ん、れろれろ……絶対ダメにやのに……♪ ん……れろ……れろれろれろ……♪ ん……にやぶっ♪ ん、ん……♪ んぷっ……♪ れろれろ……♪ ん……ちゅ♪ ちゅ、ちゅ♪」

美月

「にやあゝ♪ お兄しゃゝん♪ えへへ♪ 好きです♪ お兄しゃん、大好きです♪」

美星

「お兄……好き♪ ん……にやぶっ……♪ しゅき……♪ んん♪ はあ、はあ……お兄い……すきい……♪」

美月

「お兄しゃん♪ しゅきですにやゝ♪」

美星

「お兄♪ 好きにや♪」

美月

「お兄しゃん♪」

美星

「お兄い……♪」

美月

「しゅきれすにや♪」

美星

「好きにや♪」

美月

「しゅきです♪」

美星

「大好き♪」

美月

「お兄しゃん♪」

美星

「お兄い♪」

美月。

「愛してますにゃ♪ は~~~~~~~~にゃむう♪」

美星。

「愛してるにゃ~~~~♪ は~~~~~~~~んむう♪♪」

美星

「ん、ちゅ♪ はあ、お兄い~~~~♪ ん~~~~♪
れろれろれろ~~~~♪ ん、にゃあ♪ お
兄い~~~~♪ ん~~~~にゃあ~~~~♪ んにゃ♪
ん、にゃ、にゃ~~~~♪」

美月

「にゃふふ♪ お兄しゃん？ ん~~~~ちゅ♪
にゃあ♪ お兄しゃんのお~~~~♪ んん♪
み~~~~か~~~~す♪ えへへ♪ いっぱい舐めと
れましたにゃ~~~~♪」

美星

「ん、ん~~~~~~~~ぷはあ♪ はあ、はあ~~~~ん、
あたひも~~~~ん~~~~これ~~~~またお兄の耳力
スが取れて~~~~ん、ん~~~~口の中お兄の
くっさい匂いでいっふあいにな~~~~」

美月

「ふふふ♪ お兄しゃん？ わたひ、お兄ひゃん
がこの後わたし達に何をして欲しいのか当てら
れる自信がありまふ♪」

美星

「ま、伊達にずっと一緒じゃないひ？ ん……
しょうがないから……ん、んん……お兄のひ
てほしいころ……してあげる……んにゃ……
♪」

美月

「じゃあ美星？ 一緒にい……」

美星

「んにゃ……お姉……せ……のお………！」

美月

「ん……にやむ……くちゆくちゆくちゆくちゆ
くちゆくちゆくちゆくちゆくちゆくちゆくちゆく
ちゆくちゆくちゆくちゆくちゆくちゆくちゆく」

美星

「ん……にやむ……くちゆくちゆくちゆくちゆ
くちゆくちゆくちゆくちゆくちゆくちゆくちゆく
ちゆくちゆくちゆくちゆくちゆくちゆくちゆく」

美月

「ん……ん……くっ、くっ、くっ、くっ、
くっ……ん、んふ……ん……んにゆうう
……ん、くっ……ぷはあ♪ はあ、はあ、
はあ……すう……はああ………
…♪」

美星

「ん……ん……くっ、くっ、くっ、くっ、
くっ……ん、んふ……ん……んにゆうう
……ん、くっ……ぷはあ♪ はあ、はあ、
はあ……すう……はああ………
…♪」

美月

「ん、えへへ♪ お兄しゃん♪ お兄しゃんのくっさい耳カス♪ ご馳走様ですにゃ♪」

美星

「ん……くっ……うっ……おえええ……相変わらずくっさい耳……んもう……ここまでくるとあたし達に食べさせる為にわざと掃除してないんじゃないの？ ん、はあぁ……ん、ああ……くっさぁ……ん、んん……♪ はあ……くっさぁ……♪♪」

美月

「ふふ♪ な～んて♪ いつも最後は美味しそうに味わっちゃうくせに♪ んもう♪ 美星は可愛いにゃぁ……♪」

美星

「ん……別に……こんなの事……お兄以外には絶対しないし、出来にゃいから……それにお兄があたし達にして欲しがってるんだもん……好きな人にして欲しいって言われたら……しない訳にはいかないじゃない……にゃう……」

美月

「えへへ♪ ですって、お兄しゃん♪ こんなにお兄しゃんの事が大好きなメス猫アイドルは、絶対私達の他にはいないんですから♪ これからも、どうか大切に飼ってくれると嬉しいですよ♪」

美星

「ほんとにそう……お兄？ もし捨てたりしたら許さないんだから。あたし達をこんなエッチな子猫にした責任……最後までとってよね？」

美月

美星

美月

美星

美月、

美星、

「にゃふふ♪ にゃあ♪ お兄しゃ〜ん♪」

「ん……お兄……♪」

「これからお兄しゃんだけのアイドル猫、美月と♪」

「お兄だけのアイドル猫、美星を……♪」

「可愛がってくださいにゃ♪」

「可愛がってにゃ♪」
